

IFCS2017 開催報告

今泉 忠

第15回国際分類学会(IFCS2017)が2017年8月8日～10日に東京東海大学高輪キャンパスで開催されました。日本にてIFCS大会が開催されたのはIFCS-96大会以来であり、21年振りの開催となりました。

IFCS-96大会では「データの科学」をテーマとして、林知己夫名誉教授(統計数理研究所, 元日本分類学会会長)が大会組織委員長を、大隅昇名誉教授(統計数理研究所)が実行委員会委員長を務められ、皆様の多大なるご努力により大成功したと記憶しております。今回のIFCS2017大会では「ビッグデータ時代のデータサイエンスへの挑戦」をテーマとして、海外も含め332名の参加者が参加し、202名の参加者が6か国のアジアの国々から御参加して頂きました。プログラムとしましては、plenary invited sessions, specialized session, contributed paper sessionの3セッションで行われ、講演件数は16のポスター発表を含む256件となりました。

組織委員長は私今泉忠(多摩大学, 元日本分類学会会長)が大会組織委員長を、山本義郎教授(東海大学)が実行委員会委員長およびプログラム委員会委員長を務められ、今回も実行委員会やプログラム委員会、事務局、アドバイザー委員会の皆様の多大なるご尽力や国内外の研究者の参加、多くの協賛企業や団体からの支援も頂きましたことについて感謝申し上げます。

大会・セミナー・シンポジウム関連報告

○ 大会開催報告

日本分類学会第36回大会開催報告

大会実行委員長 水田 正弘(北海道大学)

日本分類学会第36回大会は、2017年12月4日(月)・5日(火)札幌コンベンションセンターにて開催されました。本大会は2日間にわたって15件の講演が行われ、38名の参加者により活発な討論が行われました。実行委員長として発表者の皆様、参加者の皆様に感謝を申し上げます。

大会における各セッションの講演は以下の通りです。

<目次>

・IFCS2017 開催報告	1
・大会・セミナー・シンポジウム関連報告	
大会開催報告	1
セミナー開催報告	3
シンポジウム開催報告	3
・学会賞について	
日本分類学会2017年度学会賞選考理由について	4
学会賞受賞者より	5
・日本分類学会フェロー授与について	
日本分類学会2017年度フェロー授与選考理由について	8
・学会議事録等	
平成29年度総会議事録	9
運営委員会議事録	18
幹事会議事録	26
・事務局から	31

セッション1 座長：山本義郎(東海大学) (12月4日 10:00～11:40)

- ・クラスラベルに構造がある場合の2値分類問題に対する半教師あり局所正準相関分析
水谷成吾(同志社大学大学院)・宿久洋(同志社大学)
- ・相対密度比を用いた多クラス分類について
岡部格明(同志社大学)・土田潤(同志社大学大学院)・宿久洋(同志社大学)
- ・Smartphone based Emergency Reporting and Response System in Myanmar
Dim En Nyaung(Rikkyo University)・Kazunori Yamaguchi(Rikkyo University)
- ・High-dimensional EM factor analysis with Clustering Variables
Jingyu Cai(大阪大学大学院)・Kohei Adachi(大阪大学大学院)

セッション2 座長：宿久洋(同志社大学) (12月4日 12:50～14:05)

・菊池寛『慈悲心鳥』代作問題に関する分類・判別研究

柳燁佳 (同志社大学大学院) ・孫昊 (同志社大学大学院) ・金明哲 (同志社大学)

・国際比較調査の一般的回答傾向について

角田弘子 (日本ウェルネススポーツ大学) ・吉野諒三 (統計数理研究所)

・Structured Support Vector Machine を用いた土地被覆画像のマルチラベル判別

江田智尊 (九州大学大学院) ・ Abdallah Zeggada (University of Trento) ・ Farid Melgani (University of Trento) ・西井 龍映 (九州大学マス・フォア・インダストリ研究所)

セッション3 座長：南弘征 (北海道大学) (12月4日 14:15~15:30)

・Subspace K-means Clustering の三相データへの拡張

橋本 翔 (関西学院大学) ・長田典子 (関西学院大学)

・探索的共分散構造分析の混合モデル化

宇野光平 (大阪大学大学院)

・高次元線形予測子をもつ方向回帰モデリング

望月優志 (中央大学大学院) ・酒折文武 (中央大学)

セッション4 座長：岡田謙介 (専修大学) (12月5日 10:00~10:50)

・年代別・市町村単位の自殺ホットスポットの検出法について

李 琦豪 (北海道大学) ・小宮由里子 (北海道大学) ・南弘征 (北海道大学) ・水田正弘 (北海道大学)

・双対尺度法から得られる Super Distance Matrix を用いた MDS に基づく分割表の行対象と列対象の同時プロットについて

阿部寛康 (京都大学)

セッション5 座長：冨田誠 (東京医科歯科大学) (12月5日 11:00~12:15)

・多次元尺度法モデルの MCMC 推定における不定性の解消法

岡田謙介 (専修大学) ・前川眞一 (東京工業大学)

・Group-L1-Norm Based Sparse MDS for Hierarchical Clustering

足立浩平 (大阪大学)

・野球投球ビデオ動画からの投球の動体検出のための画像の分類について

今田一希 (東海大学大学院) ・山本義郎 (東海大学)

日本分類学会第37回大会開催報告

大会実行委員長 清水 信夫 (統計数理研究所)

日本分類学会第37回大会は、2018年6月9日(土)・10日(日)に、統計数理研究所(東京都立川市)にて開催されました。

大会初日の6月9日には、午前中に今回より創設された学生発表セッションにおいて5件の講演がありました。午後からは、これまた今回より企画された特別講演「教師ありクラスタマッチングとその隕石-小惑星分類体系への応用」(講演者：福水健次先生(統計数理研究所))が行われ、その後の一般セッションにおいて3件の講演がありました。

大会2日目の6月10日には、2つの一般セッションにおいて計5件の講演がありました。全てをまとめた講演件数は2日間で14件、参加者は合計38名となり、活発な討論が行われました。実行委員長として、発表者の皆様、参加者の皆様に感謝を申し上げます。大会における各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション (6月9日 10:40~12:20)

座長：山本 義郎 (東海大学)

・Sparse factor analysis using a majorization algorithm for providing cardinality prespecified loadings

Jingyu Cai* (大阪大学人間科学研究科), Kohei Adachi (大阪大学人間科学研究科)

・汚染されたデータに対する正準相関分析法について
水谷 成吾* (同志社大学大学院文化情報学研究所), 宿久 洋 (同志社大学文化情報学部)

・異なるドメイン間の類似性を考慮したクラスタリング法について

岡部 格明* (同志社大学大学院文化情報学研究所), 宿久 洋 (同志社大学文化情報学部)

・複数の文によって構成されるデータに対する深層学習の枠組みの提案

廣瀬 竜馬* (大阪大学大学院基礎工学研究科), 寺田 吉彦 (大阪大学大学院基礎工学研究科)

・Tweet データを用いたバスケットボール選手の特徴付け

今田 一希* (東海大学大学院理学研究科), 山本 義郎 (東海大学理学部)

特別講演 (6月9日 14:00~15:00)

オーガナイザー：栗原 考次 (岡山大学)

座長：水田 正弘 (北海道大学)

・教師ありクラスタマッチングとその隕石-小惑星分類体系への応用

福水 健次* (統計数理研究所), 斎藤 侑輝 (総合研

究大学院大学複合科学研究科), 洪 鵬(千葉工業大学), 新原 隆史(東京大学), 宮本 英昭(東京大学)

一般セッション1 (6月9日 15:20~16:35)

座長: 宿久 洋(同志社大学)

- ・連続・離散変換と数量化
馬場 康維* (統計数理研究所)
- ・高次元データに対するファジィクラスティングとその性質
宇野 光平* (大阪大学大学院人間科学研究科)
- ・多項ロジットモデルを用いた統計的マッチング
高部 勲* (総合研究大学院大学複合科学研究科), 山下 智志(統計数理研究所)

一般セッション2 (6月10日 10:00~10:50)

座長: 足立 浩平(大阪大学)

- ・多重対応分析の「因子分析」としての使用
村上 隆* (中京大学現代社会学部)
- ・調査における宗教的感情・精神性概念の構造分析
角田 弘子* (日本ウェルネススポーツ大学), 吉野 諒三(統計数理研究所), 林 文(東洋英和女学院大学)

一般セッション3 (6月10日 11:00~12:15)

座長: 今泉 忠(多摩大学)

- ・災害時の Tweet 情報の経時的な変化を把握するための可視化
船山 貴光* (東北大学東北メディカル・メガバンク機構), 山本 義郎(東海大学理学部), 内田 理(東海大学情報理工学部)
- ・ウツインデータによる救命活動に対する地域差
山田 実俊* (東海大学情報技術センター), 山本 義郎(東海大学理学部), 梅澤 和夫(東海大学医学部), 尾関 智子(東海大学情報理工学部)
- ・イノベーション人材発掘・育成支援サービスのためのモデルイノベータの特性分析
久保田 貴文* (多摩大学), 志賀 敏宏(多摩大学), 鹿田 實(研究産業・産業技術振興協会), 小林 一雄(研究産業・産業技術振興協会)

○セミナー開催報告

- ・日独分類会議・法政大学大学院 IM 総研共催セミナー「Rによるマーケティングデータ分析」および「Excelによるビジネスデータ分析入門」
セミナー担当 豊田裕貴(法政大学経営大学院)

2018年2月26日(月)に「1.Rによるマーケティングデータ分析 第1回目~ゼロからのR入門:顧客

満足データを分析する」, 3月9日(金)に「2.Rによるマーケティングデータ分析 第2回目~顧客セグメントとターゲティング」, 3月4日(日)に「3.Excelによるビジネスデータ分析 第1回目~売上データの分析(1)」, 3月17日(土)に「4.Excelによるビジネスデータ分析 第2回目~売上データの分析(2)」の計4つのセミナーが法政大学経営大学院新一口坂校舎(市ヶ谷)で開催されました。

Rによるマーケティングデータ分析ではマーケティングデータの解析方法に関する導入や顧客セグメンテーション, およびターゲティングをRで実施する方法についての解説がなされました。また, Excelによるビジネスデータ分析ではオデッセイ社の資格「ビジネス統計スペシャリスト・エクセル分析ベーシック」に準拠した売上データ(時系列データ)の分析入門や回帰分析を用いた分析入門について解説がなされました。

日本分類学会の会員のみならず非会員の方にも多数(計139人)ご参加いただきました。

- ・2017年度第2回データ分析セミナー: Rを用いたデータマイニング入門

2017年度第2回セミナー担当

山本義郎(東海大学)・久保田貴文(多摩大学)

2018年2月24日(土)に多摩大学・品川サテライトにて2017年度第2回データ分析セミナーが開催されました。

セミナーは2部構成となっており, 午前の部では山本義郎講師(東海大学)による「R入門」で, RStudioを用いてデータ全体や指定した条件を満たす一部のデータの集計や可視化ができるようになることを目的として解説がなされました。午後の部では久保田貴文講師(多摩大学)による「Rを利用したデータマイニング入門」で, Rを用いてロジスティック回帰分析, 主成分分析, クラスタ分析について解説がなされました。日本分類学会の会員のみならず非会員の方にも多数(のべ35人)ご参加いただきました。

○シンポジウム開催報告

2017年度統計関連学会連合大会 企画セッション 日本分類学会シンポジウム「テストデータの分析をめぐって」開催報告

飯塚 誠也(岡山大学)

2017年9月3日~9月6日に南山大学にて開催された2017年度統計関連学会連合大会において, 日本分

類学会シンポジウム「テストデータの分析をめぐって」が開催された。

本シンポジウムの趣旨・ねらいは以下のとおりであった。

日本分類学会学会誌「データ分析の理論と応用」Vo 1.6 の特集「テストデータの分析」では、テストで測られる能力に関する実証的な検討、識別力を向上させるためのテスト開発、構成概念をより正確に測定するための手法の提案など、テストをめぐる幅広いテーマの論文が採択された。本シンポジウムでは、テストで測られる能力をより深く捉えるための手法についての議論を行う材料として、特集の中から以下の論文に関する基調講演を行い、指定討論者のコメントに基づいて総合討論を行う。

セッションの構成は次のとおりである。

オーガナイザー 椎名 久美子 (大学入試センター)

指定討論者 村上 隆 (中京大)

1 「テストデータの分析」をめぐって—企画の意図—
椎名久美子(大学入試センター)

2 学力テストの下位領域に関する多次元 IRT 分析 坂本佑太朗(株式会社リクルートマネジメントソリューションズ・東北大)・柴山直(東北大)

3 数学試験の解答形式に関する一考察—記述形式の解答方略に着目した分析— 安野史子(国立教育政策研究所)・宮埜寿夫(大学入試センター)

4 キーセンテンスと錯乱枝の語の重複・設問タイプが錯乱枝の選択率に及ぼす影響— 英語文章読解テストを用いた実証的検討 — 寺尾尚大(名古屋大・日本学術振興会)・石井秀宗(名古屋大)・野口裕之(名古屋大)

5. 評定尺度における反応傾向を考慮した係留寸描データのベイズ的項目反応モデル 北條大樹(専修大)・岡田謙介(専修大)

大会 2 日目 9 月 4 日の 10:00~12:00 での開催であり、9 ものセッションが並行する中での企画セッションであったが、多数の聴衆に恵まれ、また、活発な質疑応答・議論がなされ、大変盛会であった。

学会賞について

○ 日本分類学会 2017 年度学会賞選考理由について
栗原 考次 (岡山大学)

日本分類学会賞として日本分類学会貢献賞・日本分類学会論文賞・日本分類学会奨励賞があります。この度、日本分類学会賞に関する授賞候補者を選考し、運営委員会で決定し総会におきまして授賞式を行いました。ここでは、各授賞者に関する受賞理由を要約し

て述べることで、授賞者を祝するとともに皆様の研究促進の一助になればと存じます。

2017 年度の授賞者として、貢献賞は岡太彬訓会員、論文賞は林賢一会員、奨励賞は、小田牧子会員 (防衛医科大学校)、高岸茉莉子 (学生) 会員 (同志社大学)、林邦好会員 (聖路加国際大学) の 3 名の方が選ばれました。以下、簡単に選考理由について述べます。

日本分類学会貢献賞

岡太彬訓 会員 (立教大学 名誉教授)

主な選考理由

岡太会員は、多次元尺度構成法(MDS)およびクラスター分析に関する多数の優れた論文や著書、および、統計データ分析一般やその基礎数学に関する啓蒙性の高い著書を出版されてきました。特に、同会員は、類似性データの非対称性を考慮した新たな MDS やクラスター分析のモデル・解法の研究開発を推進され、中でも、1987 年の論文で提案され、その拡張を 1997 年に *Journal of Classification* 誌 Vol. 14 の論文に記された Radius-Distance モデルとその解法は、優れた非対称 MDS の手法として、世界的に広く知られています。

また、本学会の運営面では、会長を平成 17~20 年度の間、2 期に渡って務められ、和文誌編集委員長およびジャーナル担当幹事を、平成 25 年度から現在まで務められています。また、運営委員を平成 13, 14, 21~24 年度に務め、本年度も務められています。

国際的な学会運営の活動として、IFCS(国際分類学会連合)の会長を平成 25 年から現在まで務められています。さらに、本学会の欧文誌 *Advances in Data Analysis and Classification (ADAC)* の Editor を、創刊時(2007 年)から現在まで務められ、高いインパクトファクターを誇るまでに同誌を発展させられたのは、特筆されます。

以上のように、研究・啓蒙・学会運営の全ての面で、国内外において、データ科学としての分類学に多大な貢献をされたことは、まさに貢献賞に相応しいと考えます。

日本分類学会論文賞

林賢一 会員 (慶應義塾大学 専任講師)

主な選考理由

林賢一会員が、本学会の欧文誌 *Advances in Data Analysis and Classification (ADAC)* に公開された論文「Hayashi, K. (2017). Asymptotic comparison of semi-supervised and supervised linear discriminant functions for heteroscedastic normal popula

tions」(<https://doi.org/10.1007/s11634-016-0266-6>, pp. 1-25)が対象であります。

判別問題において、所属群が既知のデータだけでなく、所属群が未知のデータも用いる方法は「半教師あり学習」と呼ばれますが、本論文では、線形判別分析を用いた「半教師あり学習」において、所属群が未知のデータを用いることによって、AUC(ROC 曲線の下部の面積)で評価される判別精度が向上する条件について、漸近理論に基づく数式展開および数値実験によって考究されています。本論文で得られた結果は、理論および実用のうえで非常に意義深い点でデータ科学としての分類学への寄与は高く、論文賞に十分に値すると考えられます。

日本分類学会奨励賞

小田牧子 会員 (防衛医科大学校 助教)

高岸茉莉子 会員 (同志社大学 博士後期課程)

林邦好 会員 (聖路加国際大学 講師)

2017 年度は 3 名の方が授賞されました。

主な選考理由

小田会員は、空間統計学を専門の一つとされ、空間の位相構造を階層的に表現できるエシェロン解析を用い、森林総合研究所と共同して、森林を生態学的に共通属性として構成するパッチを同定する方法を提案した論文を、「データ分析の理論と応用」誌の第 2 巻に公刊され、関連研究を、2014 年の日本分類学会第 32 回大会において「生態学的プロセスに基づいた領域の分割について」と題して発表されています。以上の研究をさらに発展・拡張され、2014 年度および 2016 年度の統計関連学会連合大会をはじめとして、研究発表を続けられています。

空間統計学は、データ科学としての分類学の大切な領域でありながら、それを専門にする研究者が日本に数多くない中、ここまで着実に優れた研究発表を続けられる小田会員の今後の活躍は大いに期待され、奨励賞に相応しいと考えられます。

高岸会員は、IFCS2017 において、「Clustering methods for preference data in the presence of response styles」と題した優れた発表をされています。Likert 尺度による選好データから回答者を分類する場合、回答者個人の回答スタイルが分類の性能に影響する可能性があります。上記の発表では、回答スタイルを考慮することによって、より高い精度で真のクラスター構造を推定するためのアプローチが提案され、優れた研究と評価されます。

Web ページ <http://www.cis.doshisha.ac.jp/stat/lab/publication.php> に見られるように、高岸会員は、上記の発表前の 2015 年には、国際学術誌 *Procedia Computer Science* に論文を公刊され、データ科学としての分類学に関わる種々のテーマの研究発表を、国内外の諸学会で発表されています。現在、大学院生であることから、今後の一層の活躍が期待でき、奨励賞の授与条件に相応しいと考えられます。

主な選考理由

林邦好会員は、IFCS2013 において「Diagnostic for the risk prediction of each of type of endoleak formation after TEVAR using statistical discrimination analysis」と題して、胸部大動脈瘤に対するステントグラフト治療における副作用の予測について、影響関数に基づく優れた診断法を提案されています。また、IFCS2015 において「Analysis of influence scores for detecting a change point」と題して、時系列データにおける変化点を影響関数によって検知する優れた方法を提案されています。

Web ページ <http://gyoseki.luke.ac.jp/profile/ja.00f57d0d67c58a0f.html> に見られるように、同会員には、国際一流誌 *Pattern Recognition* の論文をはじめ、分類学のためのパターン認識・機会学習に関する数多くの研究発表があり、今後の一層の活躍が期待でき、奨励賞に相応しいと考えられます。以上より、林邦好会員を奨励賞の受賞候補者の一人として提案します。

○学会賞受賞者より

日本分類学会貢献賞を受賞して

岡太 彬訓 (立教大学)

昨年 12 月に札幌コンベンションセンターで行われた第 36 回大会において日本分類学会貢献賞を頂戴いたしました。誠に名誉なことと大変嬉しく思っております。これまで研究を進める上でお世話になり、さまざまな形で助けて下さった内外の諸先輩、同輩、後輩の方々に心から感謝いたします。お名前をここに挙げてお礼を申し上げるべきではありますが、紙面が限られていることもあり、本稿で謝意を述べさせていただきます。ご容赦下されば幸いです。

日本分類学会との縁は、研究休暇でイリノイ大学 Urbana-Champaign の Department of Psychology に滞在していた私へ 1982 年に (1983 年かも知れませんが)、大隅昇先生 (元会長) からご連絡を頂いたときに始まりました。「分類の理論と応用に関する研究会」を発足させるので、その会員にというお誘いでした。すでに北米分類学会 (Classification Society of North

America, 現在の The Classification Society) の会員であった私は、一も二もなく会員にさせて頂きました。しかし、その後は 1992 年と 2000 年に研究報告会で発表しただけで、あまり活動的な会員ではありませんでした。IFCS 大会も 1996 年の神戸の大会では発表しましたが、海外で開催された IFCS 大会へ参加したのは 2002 年のクラクフ(ポーランド)での大会が最初です。このようなことで、会員歴は長いものの学会での活動期間は長いとはいえず、このような賞を頂くのは望外の喜びです。受賞に恥じないよう今後も研究に励む所存です。

私は 1997 年から毎年ドイツ分類学会の大会で発表するようになり、それ以前から出席しておられた矢島敬二先生とお会いすることが多くなりました。また、日本分類学会代表の IFCS の理事 (Councilor) であった矢島先生と当時 IFCS Group-at-large の理事を務めていた私は、IFCS の理事会 (Council Meeting) でもお話しする機会に恵まれました。そして、2005 年に矢島会長の後任として会長に選出され 2009 年迄 4 年間務めました。矢島先生とのご縁について述べますと、学部学生時代に「工場実習」という夏休みの 2,3 週間企業などの現場で実習する科目があり、私は、電子計算機の入力に使う紙テープの穿孔機のパンチャーを対象にした動作時間研究(映画「一ダースなら安くなる」で知られている)の実習、そして、オートコダというアセンブリ言語に比べて多少高水準なコンピュータ言語(インタープリタ)を作りました。実習先は千駄ヶ谷の日本科学技術研修所で、矢島先生はそこで課長を務めておられました。余談ながら、その際の電子計算機は MADIC という名前の松下(松下電器産業あるいは松下通信工業ではないかと思えます)の製品で、松下が嘗て大型電子計算機を製造していたことを知る人はもうあまり多くないと思います。

会長になった年に日本におけるドイツ年がありました。ドイツ分類学会大会に参加した際に、これを機に日独(独日)分類シンポジウムを開催しようという話が Hans Bock, Wolfgang Gaul の両氏からあり、2005 年 9 月に第 1 回日独分類シンポジウムを東京で開催することができました。また、日本、ドイツ、イタリアの 3 分類学会で Advances in Data Analysis and Classification (ADAC) を発刊しました。日独(独日)分類シンポジウムも ADAC の発刊も、矢島先生にさまざまな面で助けて頂くことなしには実現できないことでした。日独(独日)分類シンポジウムや日・伊分類学会の交流、ADAC 発刊のいきさつなど書いておきたいことがあります。長くなりますので、これをもちまして貢献賞受賞のご挨拶とお礼の言葉とさせて頂きます。どうもありがとうございました。



岡太 彬訓
(おかだ あきのり)

立教大学名誉教授、工学博士、1966 年慶應義塾大学工学部管理工学科卒業、千葉大学工学部助手、立教大学社会学部専任講師、助教授、教授、同大学経営学部教授を経て 2007 年多摩大学大学院教授(2014 年迄)、2005 年～2009 年日本分類学会会長、2003 年～2006 年 IFCS 理事(Councilor, Group at large より選出)、2009 年～2013 年 IFCS 理事(Councilor 日本分類学会代表)、2007 年～2010 年 IFCS Finance 委員会委員長、2011 年～2013 年 IFCS Election 委員会委員、2006 年～“Advances in Data Analysis and Classification” Managing Editor、2011 年～2018 年日本分類学会編集委員会委員長、2016 年～2017 年国際分類学会連合会長、2017 年～日本分類学会フェロー、2018 年～国際分類学会連合 Past President。

日本分類学会論文賞を受賞して

林 賢一(慶應義塾大学)

この度は、栄えある賞を賜り光栄に思います。本賞にご推挙くださった先生方、日頃お世話になっている多くの方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。また特に、後述の理由から高井啓二氏(関西大学商学部)に厚くお礼申し上げます。

今回評価して頂いた論文は、分散共分散行列が異なる二つの正規母集団における判別問題に対し、教師あり学習と半教師あり学習の比較を目的とした研究です。教師あり学習は、通常の判別問題として定式化できるものですが、半教師あり学習はラベル(群の情報)が未観測の個体が含まれるようなデータから判別規則を学習する問題の枠組みです。本研究では、このようなデータを欠測データ解析の枠組みで捉え、ラベルが観測されているデータのみに対する教師あり学習と全データを用いた半教師あり学習の学習効率を評価しました。その結果、どちらの方法がよいかは欠測データメカニズム(共変量を与えた下で、ラベルが欠測する確率に対するモデル)に依存するというものでした。本研究の動機は、欠測データ解析に基づく半教師あり学習の研究があまり見当たらず、高井氏と共同研究を始めたのがきっかけでした。欠測データ解析が「まとも」に機能するためには欠測メカニズムに対する仮定が必要なことはよく知られている一方で、機械学習の文脈ではその点に興味向けられていない様子でした。

同氏との研究は Takai and Hayashi (2014, Journal of Statistical Planning and Inference) と Hayashi and Takai (2017, Communications in Statistics - Simulation and Computation) として発表されています。今回の受賞論文は、これらの拡張として位置づけられるものです。

私見ですが、欠測値や因果推論など、手許にある(ビッグ) データを通常の方法で解析しても意味のある結果が得られないような問題に、統計学の強みがあると思います。残された課題は山積みですが、今回の受賞を励みに機械学習と統計学を繋ぐような研究を通じて学問の発展に貢献したと考えています。浅学菲才の身にございますが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



林 賢一
(はやし けんいち)

大阪大学大学院 基礎工学
研究科 博士後期課程修了。
博士(工学)。

大阪大学大学院 医学系
研究科を経て、2015年より
慶應義塾大学理工学部。

日本分類学会奨励賞を受賞して

小田 牧子 (防衛医科大学校)

日本分類学会の奨励賞をいただき、誠に光栄に存じます。学部生のころよりご指導いただいている岡山大学の栗原考次教授をはじめ、共著者である岡山大学の石岡文生准教授、データを提供して下さったフィンランドの環境研究所等の先生方、また、フィンランドの先生方との研究をコーディネートして下さった東北大学の水藤寛教授に深く感謝と御礼を申し上げます。

受賞対象として挙げていただいた研究では、フィンランドのサーモンが生息する河川の流速や川底の状態などの環境データから、サーモンの生息適性場所を検討しました。データの収集は、フィンランドの先生方が河川周辺でレーザーやソナーなどの機材を用いるだけでなく、実際に河川に入っても行われます。こうした苦勞に支えられた研究成果を評価していただいたことを嬉しく思います。この研究の他に、森林の樹木の分布から森林の構造を空間統計の観点から考究しています。森林のデータにおいても調査地で実測しているものを扱っています。これらのデータに統計的視点を加えることで、フィールドワークを重ねてきた先生方の知識と経験的な情報にデータ解析から得られた新たな情報を融合させることができます。このような形で

多角的に調査領域を捉えられることを目標として、研究を進めています。

今回の受賞を糧に、今後も様々なフィールドワーカーの先生方のお力をお借りしながら横断的に研究を進めていきたいと考えておりますが、至らぬ点多くございます。今後ともご助言、ご教示を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



小田 牧子
(おだ まきこ)

平成17年3月岡山大学環境理工学部環境数
理学科卒業、平成19
年3月岡山大学大学院
環境学研究科博士前期
課程修了、平成22年9

月岡山大学大学院環境学研究科博士後期課程修了。平成22年6月防衛医科大学校医学教育部数学学科目助教。

日本分類学会奨励賞を受賞して

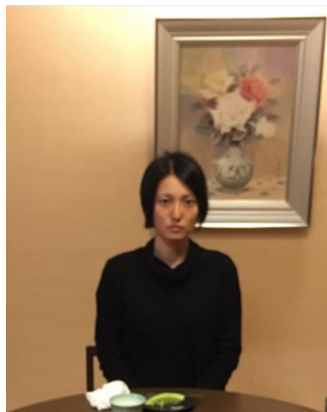
高岸 茉莉子 (同志社大学 博士後期課程)

この度は栄えある賞をいただき、大変光栄に思います。これまでにご指導・ご鞭撻をいただいた諸先生方、また、同志社大学文化情報学研究科の指導教員である宿久洋教授にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

私はこれまで、質問紙調査におけるリッカート尺度の質問項目(例えば回答を、1:強く同意しない~5:強く同意する、といったカテゴリの中から自分の意見に最も近いものを選ぶような質問項目)でよく見られる、回答スタイルの問題解決のための統計手法開発に取り組んでおりました。回答スタイルとは、質問の内容とは関係のない回答者のカテゴリの選択の傾向(例えば質問の内容に関係なく極端なカテゴリを選ぶ、など)を指し、これは国際比較調査において特に顕著に表れています。この回答スタイルにより、対象間の直接の比較が困難になるなどの問題が生じます。しかし与えられたデータから回答スタイルを取り除くことは難しいとされてきました。なぜなら取り除くためには、データとして与えられた回答から、真の意図と回答スタイルとを区別する必要がある、真の意図は実際にデータとしては与えられないため、立証が難しいからです。しかし近年大規模な国際比較調査が増え、データの量のみならずデータの質を改善するための研究も重要となってきています。私はその流れを受け、今回この回答スタイルに関する問題解決のための統計手法を

開発致しました。

この度頂いた賞を励みに、今後も良い研究ができるよう、また微力ながら日本分類学会の発展に貢献できるよう、精進していきたいと思ひます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



高岸 茉莉子
(たかぎし まりこ)
2013年3月同志社大学 社会学部教育文化学科 卒業, 2015年3月同志社大学大学院文化情報学研究科博士課程前期課程 修了, 2018年4月現在同志社大学大学院文化情報学研究科 博士課程後期課程在学中。

日本分類学会奨励賞を受賞して
林 邦好 (聖路加国際大学)

この度は、日本分類学会奨励賞という栄えある賞をいただき、大変光栄に存じます。これまでにご指導ご鞭撻をいただきました先生方、協働研究を進めていく中でお会いし助言を賜りました企業の方々、およびアカデミックおよび民間企業の事務の皆様はこの場を借りて心より御礼申し上げます。

私はこれまで、統計的感度分析法という統計モデルの変化を定量的に評価する方法論について研究を進めてきました。通常、統計学では、分析対象である(過去の)データを用いてモデルを構築し、観測値の予測や判別を行いますが、モデルの構築に用いる観測値中に他の観測値とは性質や特徴の異なる外れ値と呼ばれる観測値が存在する場合は、分析結果は大きな影響を受けてしまいます。したがって、こうした影響的な観測値を検出し他の観測値との差異をモデル上で検証しておくことは、研究および分析の目的や獲得した知見をさらに深めていく上で重要なプロセスになります。さらに、構築したモデルに対して影響的な観測値のうち、特に予測・判別精度あるいは感度・特異度などに大きな影響を与える観測値集合を同定し、それらの集合のみに直接的にウエイトをかけることにより分析精度とデータ効率の両者を高めることも期待できます。私は、2010年から現在に至るまで国立研究開発法人科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業 CREST タイプの研究プロジェクトの中で研究を行う機会をいただき、上述いたしました方法論を進展させ主に臨床データに

対して実際に応用してきました。現在も聖路加国際病院を中心とした臨床データにこうした方法論を適用し、臨床医療の高度化および発展に向けて幅広く研究を進めています。戦略的創造研究推進事業のプロジェクトの中では多くの数学分野の方々にお会いする機会にも恵まれ、およそ一年に一度、Interaction between Pure and Applied Mathematics という数理科学分野の研究集会にて、数学分野の先生方および研究者の方々に助言をいただきながら引き続き統計的感度分析法に基づく方法論(「影響関数に基づく外れ値検出から変化点検出までの統一的な枠組み」)に関する研究を継続しています。是非、本奨励賞の受賞を機に上述いたしました研究や他の学術分野の方々とのネットワークなど、様々な観点から、何らかの形で日本分類学会に貢献していきたいと存じております。何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、学部から修士課程まで私の研究を力強く後押しくださり、多大なるご教示を賜りました田中豊先生(岡山大学名誉教授)、そして博士課程にてご指導ご鞭撻を賜りました水田正弘先生(北海道大学)、博士課程修了後、私を温かく迎え入れてくださり、ご指導をいただきました現日本分類学会会長栗原考次先生(岡山大学)、また本学会の会員へのご推薦をくださり、ご教示およびご高配をいただいております足立浩平先生(大阪大学)に改めて厚く御礼申し上げます。



林 邦好
(はやし くによし)
2006年3月 南山大学 数理情報学部数理科学科 卒業, 2008年3月 南山大学大学院数理情報研究科数理情報専攻

博士前期課程修了, 日本学術振興会特別研究員(DC2)を経て2011年3月北海道大学大学院情報科学研究科複合情報学専攻博士後期課程修了, 2011年4月から2015年12月まで岡山大学大学院環境学研究科(2012年4月に環境生命科学研究所に改組)特別契約職員助教, 国立研究開発法人科学技術振興機構 CREST 研究員, 2016年1月から現在まで聖路加国際大学 講師, 2016年4月から現在まで日本応用数理学会和文誌編集委員。

日本分類学会フェロー授与について
○日本分類学会 2017年度フェロー授与選考理由について

栗原 考次 (岡山大学)

日本分類学会として 2016 年度よりフェロー授与制度を設置しており、今年度のフェロー授与者として、宮本定明氏（筑波大学）、村上 隆氏（中京大学）の 2 名が総会で報告されました。

授与理由

宮本会員によるクラスタリングの基礎数理の研究・新たな手法の開発は、世界的に知られ、国際一流誌に数多くの論文を公刊され、「データ分析の理論と応用」の第 4 巻では、特集「クラスター分析の新展開」を編集されています。さらに、ファジィ集合論の基礎やソフトコンピューティングの理論と応用に関する研究などでも、宮本会員は広く知られています。こうした広範な研究をまとめた著書「Fuzzy Sets in Information Retrieval and Cluster Analysis」(Kluwer, 1990)、「クラスター分析入門—ファジィクラスタリングの理論と応用」(森北出版, 1999)、および、「Algorithms for Fuzzy Clustering」(Springer, 2008)は、国内外への影響力の高いものであります。

以上のように、宮本会員の業績は、データ科学としての分類学の数学的基礎を固めるとともに、今後の研究開発の動向を方向づけるものであり、同会員をフェロー候補として提案します。

村上会員は、主成分分析(PCA)・正準相関分析・多重対応分析(MCA)、および、それらの拡張手法など、広く多変量データ解析法の理論研究と開発をされ、「データ分析の理論と応用」の第 5 巻では、PCA と MCA の関係を記す優れた論文を公刊し、国際的には、PCA の三相データへの拡張である三相 PCA の理論と応用に関する論文を、Psychometrika (1998 年)や Multivariate Behavioral Research (2003 年)などの国際誌に公刊されています。さらに、村上会員は、社会調査やテスト理論などの分野でも研究を推進されています。また、平成 23~28 年度には、本学会の運営委員を務められました。

以上のように、村上会員は、主に多変量データ解析法の分野で分類学に寄与されると同時に、学会運営にも尽力され、今後も学会の発展に貢献されると考えられるため、同会員をフェロー候補として提案します。

学会議事録等

○平成 29 年度総会議事録

開催日時：平成 29 年 12 月 4 日（月）15:30~16:30

開催場所：札幌コンベンションセンター 206 会議室

〒003-0006 札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1

■開会の挨拶

山本幹事長の挨拶により総会が開会された。また、栗原会長が近況について報告した。

■議長の選出

議長として岡山大学の飯塚誠也氏が推薦され、承認された。

議題

◆報告事項

1. 次回大会の開催地について

山本幹事長が来年度の大会について 2018 年 6 月 9 日から 10 日に統計数理研究所で、清水信夫氏（統計数理研究所）を実行委員長として開催することが報告された。また、清水実行委員長より挨拶があった。

2. IFCS2017 について

今泉 IFCS-2017 SPC 委員長からの報告を山本 IFCS-2017 SPC 委員が行った。現在ポストプロシーディングの編集作業中であり、大会の会計について IFCS への連絡が遅れていることを報告した。なお、会計報告について IFCS-2017 の組織委員会に照会することが確認された。

3. 日独分類シンポジウムについて

今泉委員からの第 6 回日独分類シンポジウムに関する報告を山本幹事長が行った。栗原会長が、日独分類シンポジウムの次回開催については 2018 年 7 月 1 日から 3 日までドルトムントにて開催されることになったことを報告した。

4. ECDA2018 について

栗原会長が、ECDA2018 が 2018 年 7 月 4 日から 6 日に Paderborn で開催される予定である旨、またその学会を日本分類学会が後援することとなったことについて報告した。

5. 編集委員会委員長および委員の選出内規について

山本幹事長が編集委員会委員長および委員の選出内規について編集委員会からだされ、運営委員会にて承認された旨を報告した。また、岡太編集委員長がこれまでの経緯やその時の決め方を明文化した旨を報告した。

6. 細則の改定について

山本幹事長が、賛助会員の会費の改定について、現在の賛助会員から理解の上、会費を 1 口 3 万円から 5 万円に変更することが運営委員会で認められた旨を報告し、それに伴って細則が改定になった旨を報告した。

7. その他

足立学会賞選考委員会委員長が、学会賞受賞者を紹介した。

◆審議事項

1. フェロー候補者について

足立学会賞選考委員会委員長が、フェロー候補者について提案した。審議の結果、原案通り承認された。

2. 平成 29 年度事業計画ならびに予算案について

久保田庶務担当幹事が、平成 29 年度事業計画ならびに平成 29 年度予算案について提案し、審議の結果、原案通り承認された。

3. 会則の改定について

山本幹事長が、会計監事が担当する役割として会計監査に加えて、業務監査を行うことに変更することおよび、会計監事を監事に名称変更することが運営委員会において承認された旨を報告し、それにともなって、会則の改定が提案された。審議の結果、原案通り承認された。なお、選挙に関連して、シニア会員の被選挙権等については継続審議となり、運営委員会の審議を経て、次回総会で諮られることとなった。

4. 編集委員会委員長の交代について

山本幹事長が、編集委員会からの依頼で運営委員会において、次期編集委員会委員長として吉野編集委員会副委員長が承認された旨、また次期編集委員長は平成 30 年度から就任するが、現在編集している Vol.6 については岡太編集委員長が担当し、次号からの編集に次期編集委員長が担当することが承認された旨を報告し、同案を総会において提案した。審議の結果、原案通り承認された。

5. その他

その他の審議事項はなし。

■2017 年度日本分類学会賞授賞式

2017 年度日本分類学会賞授賞式において、岡太 彬訓氏 (立教大学) に貢献賞、林 賢一氏 (慶應義塾大学) に論文賞、小田 牧子氏 (防衛医科大学校)、高岸 茉莉子氏 (同志社大学) および林 邦好氏 (聖路加国際大学) に奨励賞が授与された。

■フェロー授与式

宮本 定明氏 (筑波大学) および村上 隆氏 (中京大学) にフェローの称号が授与された。

■閉会の挨拶

山本幹事長の挨拶により総会が閉会された。

○平成 30 年度総会議事録

開催日時：平成 30 年 6 月 9 日 (土) 17:00~18:00

開催場所：統計数理研究所 大会議室

190-8562 東京都立川市緑町 10-3

■議長の選出

議長として東京医科歯科大学の富田誠氏が推薦され、承認された。

議題

◆報告事項

1. 第 38 回大会・2019 年度総会の開催地について

山本幹事長が第 38 回の大会について 2019 年 6 月 15 日から 16 日に実践女子大学 (渋谷キャンパス) で、竹内 光悦氏 (実践女子大学) を実行委員長として開催することが報告された。また、大会初日に 2019 年度総会を開催することが報告された。

2. 和文誌について

山本幹事長が和文誌について第 7 号の進捗状況について、および第 8 号について報告した。

3. IFCS-2017 について

今泉 IFCS-2017 組織委員長が IFCS-2017 の会計状況およびポストプロシーディングの進捗状況について報告した。

4. 第 6 回日独分類シンポジウムについて

今泉実行委員長が資料に基づいて第 6 回日独分類シンポジウムについて事業報告・会計報告およびポストプロシーディングの進捗状況について現状を報告した。

5. 第 7 回独日分類シンポジウムについて

栗原会長が第 7 回独日分類シンポジウムについて報告した。

6. ECDA2018 について

栗原会長が日本分類学会が共催する ECDA2018 について現状を報告した。

7. COMPSTAT2018 について

今泉委員が COMPSTAT2018 において日本分類学会としてセッションを開催する旨を報告した。

8. 大会における優秀学生発表に対する賞について

山本幹事長が学生優秀発表賞の選考・授与について、学会賞選考委員会の委員長が学生優秀発表賞の委員長も兼ねること、また参加者のうち審査対象者とは関係しない者が審査をすることを報告した。

9. 2018年度日本分類学会シンポジウムについて

山本実行委員長が2018年度日本分類学会シンポジウムについて開催概要について紹介した。

10. 平成30年度データ分析セミナーについて

山本実行委員長が平成30年度データ分析セミナーについて開催の概要を報告した。

11. 連合大会での企画セッションについて

栗原会長が連合大会での企画セッションについて、2017年度までの連合大会でシンポジウムを企画セッションとして実施していた経緯を説明し、2018年度連合大会では企画セッションを実施しない旨、また2019年度以降はシンポジウムではなく独立して企画セッションを実施することを検討することを報告した。

12. 運営委員会内規について

山本幹事長が運営委員会規定についてこれまでの経緯を説明し、資料に基づいて運営委員会で承認された案を報告した。特に、定例の運営委員会を年に2回開催すること、また定足数を定めること等を報告した。

13. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. フェロー候補者について
2. 平成29年度事業報告ならびに決算について

久保田庶務担当幹事が、平成29年度事業報告ならびに決算について提案し、審議の結果、原案通り承認された。

2. 平成30年度事業計画ならびに予算案について

久保田庶務担当幹事が、平成30年度事業計画ならびに平成30年度予算案について提案し、審議の結果、原案通り承認された。

3. 会則・細則の改定について（資料7-1, 7-2, 7-3, 7-4, 7-5）

山本幹事長が、運営委員会の名称についてこれまでの経緯を説明し、資料に基づいて運営委員会を評議員会、運営委員を評議員と変更すること、およびそれに伴って関連する会則・細則を改定することを一括で提案し、審議の結果、原案通りに承認された。

4. その他

その他の審議事項なし。

■学生優秀発表賞の授与式

Jingyu Cai氏（大阪大学）、岡部 格明（同志社大学）に学生優秀発表賞の授与された。

■2018年度日本分類学会賞授賞式

2018年度日本分類学会賞授賞式において、馬場 康維氏（統計数理研究所）に貢献賞、安藤 宗司氏（東京理科大学）、田畑 耕治氏（東京理科大学）に論文賞、宇野 光平氏（大阪大学）に奨励賞が授与された。

■フェロー授与式

鈴木 達三氏（統計数理研究所）にフェローの称号が授与された。

日本分類学会 平成 29 年度事業報告

平成 30 年 5 月 12 日

1. 第 36 回大会, セミナー, シンポジウムの開催

第 36 回大会を平成 29 年 12 月 4 日 (月) ~5 日 (火) 札幌コンベンションセンターにて開催した (実行委員長: 水田正弘氏 (北海道大学), 発表件数 15 件).

2017 年度第 1 回データ分析セミナー: オムニチャネル時代のデータ分析~研究動向と分析演習~を平成 29 年 7 月 13 日 (木) に鶴見裕之氏 (横浜国立大学) を中心に開催し, 2017 年度第 2 回データ分析セミナー: R を用いたデータマイニング入門を平成 30 年 2 月 24 日 (土) に久保田貴文氏 (多摩大学) を中心に開催した.

日本分類学会シンポジウム「企画セッション: 「テストデータの分析」をめぐって」を平成 29 年 9 月 4 日 (月) (統計関連学会大会会期中) に飯塚誠也氏 (岡山大学) を中心に開催した.

2. 第 36 回総会の開催

第 36 回総会を第 36 回大会開催中の平成 29 年 12 月 4 日 (月) に札幌コンベンションセンターにて開催した.

3. 運営委員会, 幹事会の開催

(1) 平成 29-30 年度運営委員会は第 1 回をネット上で開催し, 平成 29-30 年度幹事会案について審議し, 承認した. 第 2 回はネット上で開催し, 入退会承認について審議し, 承認した. 第 3 回はネット上で開催し, 入会承認について, 大会承認について審議し, すべて承認した. 第 4 回は平成 29 年 9 月 4 日 (月) (統計関連学会連合大会会期中) に南山大学 名古屋キャンパスにて開催し, 平成 29 年度事業計画および予算案, 統計関連学会連合の欧文ジャーナルの参加と倫理規定, 入退会の承認について, 平成 29-30 年度大会について審議し, すべて承認した. 第 5 回はネット上で開催し, 入会承認について審議し, 承認した. 第 6 回はネット上で開催し, 入会承認について審議し, 承認した. 第 7 回はネット上で開催し, 学会賞候補者, フェロー候補者, 入会承認についてについて審議し, すべて承認した. 第 8 回は平成 29 年 12 月 3 日 (日) に北海道大学で開催し, 来年度の大会について, 学会賞, フェローについて, 編集委員会委員長および委員の選出内規について, 次期編集委員会委員長について, 入退会について, 入会手続の簡素化について, 賛助会委員の会費について, 監事について, 運営委員会の定足数について, 会則等の改定について, 学生に対する大会での賞の授与について, 和文誌の J-Stage 登録作業について, ADAC について, 連合大会での企画セッションについて, 総会議題について審議し, すべて承認された.

(2) 平成 29-30 年度幹事会は, 第 1 回を平成 29 年 5 月 26 日 (金) に多摩大学品川サテライトにて開催し, 平成 29 年度事業計画および予算案について, 大会について, セミナーについて, IFCS-2017 について, 日本分類学会が主催する事業について 特に日独について, 会則, 細則等の変更について, 会員増に向けた施策について, ADAC について(将来的な会費値上げについての検討), 統計関連学会連合の委員等について審議を行った. 第 2 回は平成 29 年 12 月 3 日 (日) に北海道大学で開催し, 入会手続の簡素化について, 来年度の大会について, 学会賞, フェローについて, 学生に対する大会での賞の授与について, 監事について, 編集委員長について, 運営委員会の定足数について, 会則等の改定について, 和文誌の J-Stage 登録作業について, ADAC について, 連合大会での企画セッションについて, 運営委員会次第・総会次第について検討し審議を行った. 第 3 回を平成 30 年 3 月 6 日 (火) に統計数理研究所で開催され, 平成 30 年度予算案について, 平成 29 年度会計報告について, 平成 29 年度事業計画について, 大会における優秀学生発表に対する賞について, 来年度のシンポジウム, 連合大会での企画セッションについて, 和文誌の J-Stage への登録について(費用, 公開方針), 学会賞, フェローについて, 平成 30 年度予算案について, 運営委員会次第・総会次第について検討し審議を行った. 第 4 回を平成 30 年 3 月 27 日 (火) に東京医科歯科大学で開催され, 平成 30 年度予算案について, 平成 29 年度会計報告について, 平成 29 年度事業計画について, 大会における優秀学生発表に対する賞について, 来年度のシンポジウム, 連合大会での企画セッションについて, 和文誌の J-Stage への登録について(費用, 公開方針), 学会賞, フェローについて, 平成 30 年度予算案について, 運営委員会次第・総会次第について検討し審議を行った.

4. 会報, ウェブページ, メールニュースおよび Facebook による学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に, 学会活動の告知および報告を会報 (No.36 を平成 29 年 7 月発行) およびウェブペー

ジにて発信を行った。加えて、速報性のある情報についてはメールニュースや Facebook などを活用し、適宜会員への情報提供を行った。

5. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行、ADAC および JJSD の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に第 7 巻第 1 号の編集を行った。また、ADAC (欧文ジャーナル) および JJSD (連合欧文ジャーナル) への発行協力および投稿支援を行った。

6. 学会賞について

平成 29 年度の学会賞として、貢献賞を岡太 彬訓氏 (立教大学)、論文賞を林 賢一氏 (慶應義塾大学)、奨励賞を小田 牧子氏 (防衛医科大学校)、高岸 茉莉子氏 (同志社大学)、林 邦好氏 (聖路加国際大学) に授与した。

7. フェローについて

フェローの称号を宮本 定明氏 (筑波大学) および 村上 隆氏 (中京大学) に授与した。

8. 日本学術会議の活動

日本学術会議の日本学術会議協力学術研究団体として活動を行った。

9. IFCS-2017 について

IFCS-2017 の主催団体として開催した。

10. 日独分類シンポジウム (Japanese German Symposium on Classification)

2017 年 8 月 11 日～12 日に多摩大学品川サテライトで開催された 6th Japanese German Symposium on Classification を開催した。

11. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合の一員として活動を行い、2017 年度統計関連学会連合大会の主催、同大会プログラム委員会および運営委員会へ参加した。
- (2) 国際分類学会(IFCS)の一員として活動を行い、分担金の負担を行った。
- (3) IFCS 傘下学会への協力を行った。
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行った。

単位:円

科 目	予算額	決算	増 減	備 考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	20,000	10,000	2,000 円×10 人
2 会費収入	575,000	792,784	217,784	納入率 71%
正会員	525,000	512,784	△ 12,216	5,000 円×100 人(納入率:66%)
シニア会員	6,000	17,000	11,000	3,000 円×5 人(納入率:100%)
学生会員	14,000	30,000	16,000	2,000 円×15 人(納入率:100%)
賛助会員	30,000	90,000	60,000	30,000 円×3 口(納入率:100%)
前年度以前分	0	128,000	128,000	
前受金	0	15,000	15,000	
3 論文誌関係収入	310,000	520,842	210,842	
論文集売上	0	0	0	バックナンバー販売(郵送費含む)
予稿集売上	0	0	0	
広告収入	180,000	180,000	0	50,000×3社+30,000×1社(Vol6)
別刷代金	30,000	39,744	9,744	別刷り(Vol.6)立替分(うち1件は前年度支払い済み)
論文誌関係雑収入	100,000	301,098	201,098	ToX化料金(Vol.6)、頁超過(Vol.6)立替分
4 雑収入	900,000	289,663	△ 610,337	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	独立採算
セミナー参加費	400,000	175,500	△ 224,500	2回のみ
国際活動関連(セミナー費)	200,000	0	△ 200,000	
寄付・広告等	0	62,000	62,000	第35回大会補助費寄附
利子収入	0	3	3	銀行口座利子
IFCSセミナー費	300,000	0	△ 300,000	
その他	0	52,160	52,160	会計幹事代理の立替(2018年度に支払い)
5 繰入金収入	25,000	0	△ 25,000	
積立より繰入	25,000	0	△ 25,000	
A 当期収入合計	1,820,000	1,623,289	△ 196,711	
B 前期繰越収支差額	1,898,905	1,898,905	0	
C 収 入 合 計 (A+B)	3,718,905	3,522,194	△ 196,711	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	630,000	987,382	△ 357,382	
和文誌(Vol.7)	500,000	595,888	△ 95,888	予算はVol.7、実際はVol.6の支払い。
別刷代金	30,000	48,492	△ 18,492	
論文誌関係雑支出	100,000	122,040	△ 22,040	
その他	0	220,962	△ 220,962	頁超過分(Vol.6)
2 事業費	835,000	192,400	642,600	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	100,000	△ 50,000	次回大会分を支払い済み
セミナー運営補助費	160,000	40,684	119,316	講師謝礼等
IFCSセミナー費	300,000	0	300,000	
国際活動関連(セミナー費)	200,000	0	200,000	
広報費	5,000	0	5,000	
学会賞・フェロー経費	70,000	51,716	18,284	学会賞表彰状経費、フェロー認定経費、受賞者の花代・大会参加費
名簿作成	0	0	0	
選挙経費	0	0	0	
J-Stage学会誌公開費用	50,000	0	50,000	
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	47,000	18,360	28,640	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	45,000	18,360	26,640	会議弁当代
その他	2,000	0	2,000	
4 事務費	134,932	94,938	39,994	
業務委託費	50,432	50,432	0	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	0	10,000	
事務用品・消耗品費	25,000	399	24,601	
ADAC 事務連絡費	2,000	0	2,000	
ウェブ運営管理費	3,500	3,283	217	ドメイン移管費
会報印刷費	39,000	40,824	△ 1,824	会報 No.36
印刷費	5,000	0	5,000	
その他	0	0	0	
5 通信・郵送料	60,000	66,728	△ 6,728	
会報等送料	30,000	22,800	7,200	
会費請求等連絡通信費	15,000	858	14,142	会費請求に関する資料等の送付
その他	15,000	43,070	△ 28,070	学会賞・フェローなどの書類郵送料等
6 負担金	78,216	70,197	8,019	
IFCS	58,000	49,981	8,019	隔年で2年分払いのため2017-18年度分
統計関連学会連合	20,216	20,216	0	2017年分(振込手数料を含む)
7 積立	30,000	30,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	
名簿作成のための積立	0	0	0	
選挙経費のための積立	25,000	25,000	0	
IFCS負担金のための積立	0	0	0	
8 予備費	1,000	0	1,000	
D 当期支出合計	1,816,148	1,460,005	356,143	
E 当期収支差額(A-D)	3,852	163,284	△ 159,432	
F 次期繰越収支差額(C-D)	1,902,757	2,062,189	△ 159,432	
G 支 出 合 計 (D+F)	3,718,905	3,522,194	196,711	

日本分類学会会則第 10 条に基づき、平成 29 年 4 月 1 日より平成 30 年 3 月 31 日までの会計経理を監査した結果、決算報告書の通り相違ないことを認めます。

平成 30 年 5 月 14 日
 会計監事 林 文 印
 会計監事 渡辺 美智子 印

(実際の決算報告書には両会計監事の直筆の署名と押印あり)

日本分類学会 平成 30 年度事業計画 (案)

平成 30 年 6 月 8 日

1. 第 37 回大会の開催
第 37 回大会を平成 30 年 6 月 9 日～10 日に清水信夫氏（統計数理研究所）を実行委員長として統計数理研究所にて開催する。また、シンポジウムの開催時期・内容等について検討し平成 30 年度中に開催する。
2. 第 37 回総会の開催
第 37 回総会を第 37 回大会開催中に開催する。
3. 日本分類学会シンポジウムの開催
日本分類学会シンポジウムを平成 30 年 11 月 24 日～25 日に山本義郎氏（東海大学）を実行委員長として沖縄県青年会館（那覇市）にて開催する。
4. セミナーの開催
平成 30 年度に数回データ分析セミナーを開催する。
5. 運営委員会、幹事会の開催
 - (1) 運営委員会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。
下記事項を検討課題とする。
 - ・他学会大会・シンポジウムへの協賛、統計関連学会連合への対応
 - ・総会の議題
 - ・その他検討の必要な議題
 - (2) 幹事会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。
下記事項を検討課題とする。
 - ・大会・シンポジウム
 - ・運営委員会の議題
 - ・その他検討の必要な議題
6. 会報、ウェブページ、メールニュースおよび Facebook による学会および関連情報の発信
広報担当幹事を中心に、学会活動の告知および報告を会報（No.37 を平成 30 年 5 月頃発行、No.38 を平成 30 年度中に発行）およびウェブページにて発信する。加えて、速報性のある情報についてはメールニュースや Facebook などを活用し、適宜会員への情報提供を行う。
7. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行、ADAC(欧文ジャーナル)およびJJSD(連合ジャーナル)の発行協力
日本分類学会編集委員会を中心に第 7 巻第 1 号の発行および第 8 巻第 1 号の編集を行い、J-Stage への登録準備を進める。また ADAC および JJSD への発行協力および投稿支援を行う。
8. 学会賞について
平成 30 年度の学会賞を授与する。次年度の学会賞の推薦・選考を行う。
9. フェローについて
フェローの候補者を検討し、ふさわしい会員にフェローの称号を授与する。
10. 日本学術会議の活動
日本学術会議の日本学術会議協力学術研究団体として活動を行う。
11. 次期役員選挙について
次期役員選挙を行う。

12. 学会事務の業務委託について

学会事務の業務委託について検討する。

13. 7th German Japanese Symposium on Classification

2018年に開催される7th German Japanese Symposium on Classification (7th GJSC 2018) (2018年7月1日～3日, ドルトムント) をドイツ分類学会と協力して開催する。

14. ECDA2018

ECDA2018 (2018年7月4日～6日, Paderborn) を共催団体として開催する。

15. COMPSTAT2018

COMPSTAT2018 (2018年8月28日～31日, Iasi) でJCSセッションを企画する。

15. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合の一員として活動を行い、2018年度統計関連学会連合大会の主催、同大会プログラム委員会および運営委員会へ参加する。
- (2) 国際分類学会(IFCS)の一員として活動を行い、分担金の負担を行う。
- (3) IFCS傘下学会への協力を行う。
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行う。

平成 30 年度予算(案)
平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科 目	予算額	前年度予算	増 減	備 考
I. 収入の部				
1 入会金収入	20,000	10,000	10,000	2,000 円×10 人として算出
2 会費収入	754,000	575,000	179,000	
正会員	525,000	525,000	0	5,000 円×(151人×0.7≒105人)として算出
シニア会員	9,000	6,000	3,000	3,000 円×(5人×0.7≒3人)として算出
学生会員	20,000	14,000	6,000	2,000 円×15人×0.7≒10人)として算出
賛助会員	150,000	30,000	120,000	50,000 円×3 口として算出
前年度以前分	50,000	0	50,000	平成29年度は128,000円
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	310,000	310,000	0	
論文集売上	0	0	0	0 バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	0 バックナンバー販売など
広告収入	180,000	180,000	0	0 論文誌 Vol. 7 の広告収入。実績より算出
別刷代金	30,000	30,000	0	0 別刷り(Vol.7)立替分
論文誌関係雑収入	100,000	100,000	0	0 TeX化料金、カラー印刷代金(Vol.7)立替分
4 雑収入	360,000	900,000	△ 540,000	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	
セミナー参加費	360,000	400,000	△ 40,000	0 実績より年3回で算出
国際活動関連(セミナー費)	0	200,000	△ 200,000	
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	0	0	
IFCSセミナー費	-	300,000	△ 300,000	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	0 選挙費用積立より繰入
A 当期収入合計	1,469,000	1,820,000	△ 351,000	
B 前期繰越収支差額	2,062,189	1,898,905	163,284	
C 収 入 合 計 (A+B)	3,531,189	3,718,905	△ 187,716	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	630,000	630,000	0	
和文誌	500,000	500,000	0	0 Vol.7.送料を含む
別刷代金	30,000	30,000	0	0 Vol.7
論文誌関係雑支出	100,000	100,000	0	0 Vol.7
その他	0	0	0	
2 事業費	355,000	835,000	480,000	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	50,000	0	0 大会分は前年度支払い済み。シンポジウム分のみ。
セミナー運営補助費	70,000	160,000	90,000	0 年3回で、講師謝礼・資料作成費等
IFCSセミナー費	-	300,000	300,000	
国際活動関連(セミナー費)	0	200,000	200,000	
広報費	5,000	5,000	0	0 学会パンフレット作成費
学会賞・フェロー経費	80,000	70,000	△ 10,000	0 表彰状・フェロー認定経費、花代、大会参加費、優秀学生表彰費
名簿作成	0	0	0	0 今年度実施計画なし
選挙経費	50,000	0	△ 50,000	
J-Stage学会誌公開費用	100,000	50,000	△ 50,000	
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	47,000	47,000	0	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	45,000	45,000	0	0 実績より算出
その他	2,000	2,000	0	0 実績より算出
4 事務費	228,092	134,932	△ 93,160	
業務委託費	50,432	50,432	0	0 統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	10,000	0	
事務用品・消耗品費	25,000	25,000	0	0 実績より算出
ADAC 事務連絡費	2,000	2,000	0	0 該当者のみ発送。購読費は会費に上乗せ。実績より算出
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	0 実績より算出
会報印刷費	80,000	39,000	△ 41,000	0 会報 No.37, 38。実績より算出
印刷費	5,000	5,000	0	0 開催案内、プログラムなど連絡用印刷費
その他	52,160	0	△ 52,160	0 会計幹事代理の立替(2017年度分)
5 通信・郵送料	80,000	60,000	△ 20,000	
会報等送料	50,000	30,000	△ 20,000	0 会報 No.37, 38。学会からのお知らせ。実績より算出
会費請求等連絡通信費	15,000	15,000	0	0 会費請求に関する資料等の送付。実績より算出
その他	15,000	15,000	0	0 大会(総会)案内、他学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	20,216	78,216	58,000	
IFCS	0	58,000	58,000	0 今年度分は前年度支払い済み
統計関連学会連合	20,216	20,216	0	0 平成29年分。振込手数料を含む
7 積立	30,000	30,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	0 原則、独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	0 名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	0	25,000	25,000	0 選挙にかかる実費から算出
IFCS負担金のための積立	25,000	0	△ 25,000	0 IFCS 負担金支払いのための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	1,391,308	1,816,148	424,840	
E 当期収支差額 (A-D)	77,692	3,852	△ 73,840	
F 次期繰越収支差額 (C-D)	2,139,881	1,902,757	△ 237,124	
G 支 出 合 計 (D+F)	3,531,189	3,718,905	187,716	

○運営委員会議事録

・平成 29-30 年度第 1 回運営委員会(ネット)

日時:平成 29 年 4 月 5 日～5 月 20 日 (メールによる審議)

下記の議題について審議し,承認された.

議題 1.平成 29-30 年度幹事会案について

・平成 29-30 年度第 2 回運営委員会(ネット)

日時:平成 29 年 5 月 22 日～5 月 27 日 (メールによる審議)

下記の議題について審議し,承認された.

議題 1.入退会承認について

・平成 29-30 年度第 3 回ネット運営委員会

日時:平成 29 年 7 月 31 日-8 月 4 日 (メールによる審議)

下記の議題について審議し,承認された.

議題 1.入会承認について

議題 2.退会承認について

・平成 29-30 年度第 4 回運営委員会 議事録

開催日時:平成 29 年 9 月 4 日 (月) 12:15 - 13:30

開催場所:南山大学 名古屋キャンパス S 棟 S51 教室
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18

出席者:栗原 考次(会長, 岡山大学), 山本 義郎(幹事長, 東海大学), 足立 浩平(大阪大学), 久保田 貴文(多摩大学), 酒折 文武(中央大学), 佐藤 美佳(筑波大学), 清水 信夫(統計数理研究所), 竹内 光悦(実践女子大学), 中山 厚穂(首都大学東京), 林 篤裕(名古屋工業大学), 水田 正弘(北海道大学), 横山 暁(青山学院大学)(会長, 幹事長 以外五十音順, 敬称略)

オブザーバー: 富田 誠(庶務担当, 東京医科歯科大学), 小田 牧子(会計担当, 防衛医科大学校)

議題:

報告事項

1. 幹事会審議事項について報告

山本幹事長より次回の運営委員会は大会が開催される札幌にて 12 月 3 日に, 総会は 4 日に開催される予定であることが報告された.

8 月 8-10 日に東海大学高輪キャンパスで開催された IFCS-2017 は参加者が約 350 人となり盛会の内に終わったことが報告された.

また, 賛助団体の年会費を 3 万円から 5 万円とするなど会則・細則 等の変更を行う予定なども報告された.

また, 会費未納の会員への連絡についても, 会計と連携して確認する旨が報告された.

IFCS-2017 の直後に開催された日独分類シンポジウムについても報告があり, 栗原会長より次回は 2018 年夏頃にドイツで開催される方向で進んでいることも報告された.

2. その他

特になし.

審議事項

1. 平成 29 年度事業計画および予算案

山本幹事長より平成 29 年度事業計画および予算案について, 資料 1-1, 1-2 のように幹事会で取りまとめたことが説明され, 承認された.

12 月に開催される運営委員会と総会に提出するため, 気付いたことがあれば, 幹事会まで指摘いただくようアナウンスされた.

会計監査の時期について, また J-Stage の項目については継続審議となった.

2. 統計関連学会連合の欧文ジャーナルの参加と倫理規定

栗原会長より資料 2-1 に基づき, 統計関連学会連合の欧文ジャーナル Japanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD) について, JJSD の Aims & Scope を提示し, 会員のメリットとしてジャーナルの選択肢が増えること, 統計関連学会連合 6 学会で協力していくこと等, 本学会が参加することの意義を説明され, Associate Editor (AE) の選出について下記の通り承認された. その際に中山運営委員より ADAC との棲み分けについて, JJSD のキーワードで classification が入らないようにすることで重複が避けられるのではないかと, ADAC では Special Feature (SF) を本学会から企画しづらいような印象をもっている会員がいると聞いており, JJSD では本学会選出の Coordinating Editor (CE) と AE によって SF を企画することもできるのではないかと説明があった. 但し, ADAC を会員が購読するといったような改善は必要であろうとも指摘された. 今回は AE を 10 名選出し, 今後の方針は様子を見ながら AE の選出人数を検討していくこととした.

栗原会長より統計関連学会連合の統計家の行動基準について資料 2-2 を提示し説明され, 山本幹事長より本学会からの修正要求についての意見は反映されていることも説明があり, 今回はこの版で最終確認とすることが承認された.

3. 入退会の承認について

久保田庶務担当幹事より入会および退会ともに 0 件である旨が報告された.

4. その他

栗原会長より平成29-30年度大会について検討した結果、12月4-5日に北海道大学の水田正弘氏を実行委員長として札幌で開催することが説明され、承認された。水田実行委員長より札幌コンベンションセンターを大会会場として予約済であること、12月3日に北海道大学の施設で運営委員会が開催されることが説明された。

栗原会長より、学会賞選考委員会について、以下のような経緯の説明とお詫びがなされ承認された。

1) 今年度の大会、総会を12月初旬に繰り上げて実施するため、7月に発行する会報と同時に学会賞選考委員長名で学会賞の推薦依頼をする必要があることを7月初旬に気づいた。

2) 執行部が、選考委員会の委員が昨年度任命されており、任期が2年であることを認識していなかったため、急遽委員長を足立先生にお願いし、会員に推薦依頼を行なった。

3) 新選考委員を選出した後、選考委員会の委員が昨年度任命されていたことに気づいたため、合わせての選考委員会としたい。

4) 栗原会長より、学会賞委員会の構成手続きは、学会賞内規に抵触するが、今回限りの超法規的措置として承認を求めたいとの発言があった。

本学会セミナーについて2017年度第1回が7月13日に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスで開催されたことが報告されたが、次回開催や年度に何回開催するかは継続審議とした。

連合大会の企画セッションについてこれまでの経緯や問題点が前担当の横山委員より提示され、継続審議とした。

・平成29-30年度第5回運営委員会（ネット）

日時:平成29年9月29日-10月5日（メールによる審議）

下記の議題について審議し、承認された。

議題1. 入会承認について

・平成29-30年度第6回運営委員会（ネット）

日時:平成29年10月24日～10月30日（メールによる審議）

下記の議題について審議し、承認された。

議題1. 入会承認について

また、下記の議題について審議し、保留とされた。

議題2. 退会承認について

・平成29-30年度第7回運営委員会（ネット）

日時:平成29年11月07日～11月14日（メールによる審議）

下記の議題について審議し、承認された。

議題1. 学会賞候補者

議題2. フェロー候補者

議題3. 入会承認について

・平成29-30年度第8回運営委員会

開催日時:平成29年12月3日（日）、16:30-17:45

会場:北海道大学情報基盤センター北館 4階会議室 〒060-0811 北海道札幌市北区北11西5

出席者:栗原考次（会長、岡山大学）、山本義郎（幹事長、東海大学）、足立浩平（大阪大学）、岡太彬訓（立教大学）、久保田貴文（多摩大学）、酒折文武（中央大学）、清水信夫（統計数理研究所）、水田正弘（北海道大学）、宿久洋（同志社大学）

（会長、幹事長以外は五十音順、敬称略）

オブザーバー:富田 誠(庶務担当、東京医科歯科大学)

議題

◆報告事項

1. 統計関連学会連合理事会報告

栗原会長が、2017年9月に南山大学で開催された統計関連学会連合理事会について報告した。2018年度の大会は、2018年9月10日から13日までの4日間開催と1日拡大されることも併せて報告された。

2. IFCS2017について

今泉委員からの第6回IFCS-2017 SPC委員長からの報告を山本委員が行った。現在ポストプロシーディングの編集作業中であり、大会の会計についてIFCSへの連絡が遅れていることを報告した。なお、会計報告についてIFCS-2017の組織委員会に照会することが確認された。

3. 日独分類シンポジウムについて

今泉委員からの第6回日独分類シンポジウムに関する報告を山本幹事長が行った。栗原会長が、日独分類シンポジウムの次回開催については2018年7月1日から3日までドルトムントにて開催されることになったこと、それに関連してECDA2018が2018年7月4日から6日にPaderbornで開催される予定である旨、またその大会を日本分類学会が後援することとなったことについて報告した。担当窓口については、国際関連幹事を中心に検討いただき次回運営委員会において検討することが確認された。

4. セミナーについて

山本幹事長が、2月24日に東京にて山本・久保田が担当して、Rとデータマイニングの内容で実施する予定である旨を報告した。

5. 編集委員会からの報告

岡太編集委員長が、資料に基づいて、編集委員会委員長の交代について編集委員会で承認され運営委員会に諮ることとなった旨を報告した。連合大会の特別セッションの内容などをもとに、和文誌の特集を組むことを検討していることも報告された。

6. その他

栗原会長が、IFCS事務局のプレジデントエレクトとニューズレターの編集者の推薦依頼があったが、今回は見送った旨を報告した。

◆審議事項

1. 来年度の大会について

山本幹事長が来年度の大会について会期、開催時期、実行委員長について、2018年6月9日から10日(8日夕方に運営委員会を開催予定)に統計数理研究所で、清水信夫氏(統計数理研究所)を実行委員長として開催することを提案し、審議の結果、原案通り承認され、総会にて報告することとなった。

なお、2018年2月～3月にかけて平成30年度の活動計画・予算案を主な検討事項として運営委員会を開催することが予定されており、日程については調整することとなった。

2. 学会賞、フェローについて

山本幹事長が学会賞、フェローについて平成29年度の受賞者で、平成29年度総会に欠席された方については、平成30年度の総会にて授賞式・授与式を開催する旨が提案された。審議の結果、原案通り承認された。また、来年度の学会賞・フェローの選考の時期について次回運営委員会を経て、次年度の総会までに決定することが、承認された。

3. 編集委員会委員長および委員の選出内規について

資料に基づいて、岡太編集委員長が編集委員会委員長および委員の選出内規の改定について提案した。審議の結果、原案通り承認され、総会にて報告することとなった。

4. 次期編集委員会委員長について

岡太編集委員長が次期編集委員会委員長について吉野諒三氏(統計数理研究所)を次期編集委員会委員長として推薦する旨を提した。審議の結果、原案通り承認され、総会にて審議事項として諮ることとなった。

5. 入退会について

久保田幹事が資料に基づき入退会について説明した。審議の結果、原案通り承認された。

6. 入会手続の簡素化について

山本幹事長が入会手続の簡素化について、これまでの経緯を説明した。現在の入会申込書には本人と推薦人の印鑑が必要となっており、メールで申込書をスキャンしたものを送って入会申込みがあった際に、原本を学会事務局に郵送してもらうようになっている。この手続は煩雑であるので、柔軟な対応をしてよいのではないかと提案した。審議の結果、スキャンしたものをメールで送られたものについては郵送不要とすることで、承認された。申込み方法の簡素化については、簡素化の方向で検討することとなった。

7. 賛助会委員の会費について

山本幹事長が賛助会員の会費を3万円から5万円に変更する旨を提案し、原案の内容に加えて改訂の部分で実施日を追記することで承認され、細則の変更について総会で報告することとなった。(編集箇所については、議題10に示す。)賛助会員へのメリットについて、ホームページ上に明記する等について打ち出していくこととなった。

8. 監事について

岡太委員が、会計監事が担当する役割として会計監査に加えて、業務監査を行うことと変更する旨を提案した。あわせて、会計監事を監事に名称変更することが提案された。審議の結果、原案通りに承認され、会則の変更について総会に諮ることとなった。(編集箇所については、議題11に示す。)

役員選出内規の改定については、継続審議となった。

9. 運営委員会の定足数について

山本幹事長が、定足数について現状を報告した。審議の結果、継続審議となり、次回の運営委員会にて提案することとなった。併せて、運営委員会の議長についても明確にする必要がある旨が確認された。

10. 会則等の改定について

審議事項7および審議事項8に関連して、会則および細則について以下のように修正することが提案された。審議の結果、原案通りに承認された。会則については審議事項として総会に諮られること、また、細則については報告事項について総会にて報告されることとなった。

会則：

第7条(3)：会計監事 ⇒ 監事

第10条：会計監事は会計監査を行う ⇒ 監事は業務監査および会計監査を行う

第11条：会計監事 ⇒ 監事

改訂 平成29年12月4日、第7条(3)、第10条、第11条を改訂(平成31年4月1日より実施)

細則：

第2条(4)：30,000円 ⇒ 50,000円

改訂 平成29年12月4日，第2条（平成30年4月1日より実施）

11. 学生に対する大会での賞の授与について

山本幹事長が，学生会員の増加を目指して，大会における学生会員の優秀な発表に対して表彰する学生研究発表賞について，次回の大会から実施できるように準備することを提案した。審議の結果，原案どおり承認された。学会賞内規の改定については，継続審議となった。

12. 和文誌のJ-Stage登録作業について

山本幹事長が，和文誌がJ-Stageに平成30年度以降に登録されることとなったことについて報告した。今後の登録について和文誌発行と同時に進行するため次年度の予算に入れる必要があること，過去の発行については料金を出版社に照会の上検討することが提案された。審議の結果，原案通り承認された。

13. ADACについて

山本幹事長が，ADACを全員がとるようにすることについてこれまでの幹事会・運営委員会からの引き継ぎ事項であることを提案した。今後も引き続き検討することについて確認された。

14. 連合大会での企画セッションについて

山本幹事長が，統計関連学会連合大会の次年度大会において，日本分類学会としてセッションを企画するかについて確認した。統計関連学会連合大会のセッションをどのような形で企画するかについては継続審議となった。

シンポジウムについては連合大会の企画セッションとしてではなく，別日程で独自に実施する方法もあるのではないかと，という提案もなされ，シンポジウムの開催方法についても継続審議となった。

15. 総会議題について

総会の議題について議論され，順序，議題の内容について検討し，文言修正の上，承認された。

16. その他

その他の審議事項はなし。

・平成29-30年度第9回運営委員会（ネット）

日時：平成30年3月8日～3月14日（メールによる審議）

下記の議題について審議し，承認された。

議題1. 学会賞・フェローについて

議題2. 入会承認について

議題3. 退会承認について

・平成29-30年度第10回運営委員会（ネット）

日時：平成30年3月23日～3月23日（メールによる審議）

下記の議題について継続審議となった。

議題1. 学会賞の英語名称について

・平成29-30年度11回運営委員会

開催日時：平成30年3月27日（火），17:15 - 19:40

会場：東京医科歯科大学 M&D タワー18F 小会議室

1 〒113-8510 東京都文京区湯島1丁目5-45

出席者：栗原考次（会長，岡山大学），山本義郎（幹事長，東海大学），今泉忠（多摩大学），大津起夫（大学入試センター），久保田貴文（多摩大学），酒折文武（中央大学），清水信夫（統計数理研究所），竹内光悦（実践女子大学），豊田裕貴（法政大学），中山厚穂（首都大学東京），水田正弘（北海道大学），宿久洋（同志社大学）（会長，幹事長以外は五十音順，敬称略）

オブザーバー：富田 誠（庶務担当，東京医科歯科大学）

議題

◆報告事項

1. 第37回大会について

清水大会実行委員長が資料に基づいて来年度の大会について現状を報告した。2018年6月9日から10日（8日夕方に運営委員会を開催予定）に統計数理研究所（2F・大会議室）で開催予定であり，期日等の日程および参加費について，近日中にMLにて会員へ広報する予定である旨を報告した。

2. 和文誌について

宿久編集委員が第7巻第1号の進捗状況について及び第8巻第1号の進捗状況について報告した。編集委員の編集責任について，第7巻第1号の編集・発行までを現編集委員が担当し，第8巻第1号から吉野編集委員長のもとで，新編集委員が担当することが確認された。

3. IFCS-2017について

今泉IFCS-2017組織委員長がIFCS-2017の会計状況およびポストプロシーディングの進捗状況について報告した。

4. 第6回日独分類シンポジウムについて

今泉実行委員長が資料に基づいて第6回日独分類シンポジウムについて収支報告およびポストプロシーディングの進捗状況について現状を報告した。

5. 第7回日独分類シンポジウムについて

栗原会長が第7回独日分類シンポジウムについて現状を報告した。ドイツ分類学会側からサポートの提案があったが、宿泊費等については断ること、また参加形態としては検討中である旨を報告した。近日中にMLにて会員へ広報される予定である旨を報告した。なお、当該シンポジウムには、エセックス大学の関係者が参加し、留学プログラムについても相談したい旨の情報提供がされた。

6. ECDA2018 について

栗原会長が日本分類学会が共催する ECDA2018 について現状を報告した。

7. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 平成 29 年度事業報告・会計報告について

山本幹事長が資料に基づいて平成 29 年度決算案について、平成 29 年度事業報告について報告し、継続審議となった。特に、学術会議および JJSD について項目の移動や修正が必要である旨が確認された。3 月末で決算、4 月下旬から 5 月にかけて監査をうけ、6 月の運営委員会、総会に諮ることが確認された。

2. 平成 30 年度事業計画・予算案について

山本幹事長が資料に基づいて平成 30 年度事業計画案について報告し、セミナーについては項目を立てること、シンポジウムを独自に行うことなど、継続審議となった。特に、前年度予算については、欠如している項目があるので留意するよう指摘があった。

3. 大会における優秀学生発表に対する賞について

山本幹事長が資料に基づいて大会における優秀学生発表に対する賞について提示した。審議の結果、優秀学生発表賞を設立することおよびそれに対応する規約の部分修正新たに内規を規定することが承認された。規約の修正部分等は添付の通りであり、英語名称については、審議事項 7 の部分に記載する。

4. シンポジウム、連合大会での企画セッションについて

山本幹事長が連合大会での企画セッションについて飯塚誠也氏（岡山大学）が企画を立てることを提案した。審議の結果、原案通り承認された。また、山本幹事長が資料に基づいてシンポジウムを 11 月 24 日から 25 日にかけて、那覇にて山本義郎氏（東海大学）を実行委員長として開催することを提案した。審議の結果、原案通り承認された。

5. 和文誌の J-Stage への登録について(公開方針)

山本幹事長が和文誌の J-Stage への登録について説明があり、公開の方針について、和文誌について「できる限り早く公開する」ことが承認された。なお、登

録申請は和文誌を対象とし、大会の予稿集については登録対象となっていないことが確認された。

6. セミナーについて

豊田企画担当幹事および竹内企画担当幹事がセミナーについて現状を報告した。審議の結果、継続審議となった。

7. 学会賞、フェローについて

山本幹事長が資料に基づいて学会賞の英語名称を提案した。審議の結果、原案通りに承認された。承認された名称は以下の通りである。

(1) 貢献賞 (Distinguished Career Award)

(2) 論文賞 (Outstanding Paper Award)

(3) 奨励賞 (Young Researcher Award)

(4) 優秀学生発表賞 (Outstanding Student

Presentation Award)

栗原会長が学会賞選考委員会の任期について提案した。審議の結果、次回の総会までは現委員が担当することが承認された。（「学会賞選考委員会の任期に関する補足」を最後につけました）

8. 役員選挙について

山本幹事長が資料に基づいて役員選挙に関連する規約の改定を提案した。審議の結果、提案通りに承認された。規約の修正部分は添付の通りである。なお、運営委員の選出については名簿作成時点で今後検討が必要であることが確認された。

9. 運営委員会の議長および定足数について

山本幹事長が運営委員会の議長および定足数について、規定に定めることを提案した。運営委員会の名称についても評議員会に変更し、評議員会規程としてまとめることについて、継続審議となった。

10. 入退会について

久保田庶務担当幹事が資料に基づいて退会者について説明した。審議の結果、退会は承認された。なお、今後退会理由が不明な場合には積極的に先方に照会することが確認された。

11. その他

・規約の改定について

山本幹事長が資料に基づいて規約の改定について提示し、継続審議となった。

学会賞選考委員会の任期に関する補足

学会賞選考委員の任期は「学会賞内規第 5 条」により 2 年です。

現在の2016-2017年度委員は以下の2年(2回)担当しています。

2016年度の審査(2017年3月の総会で表彰)

2017年度の審査(2017年12月の総会で表彰)

これまで、日本分類学会では、学会賞選考委員会は該当年度に選考を行い、年度の最後である3月に総会で表彰を行い、その役割を終了していました。つまり、総会を基準とした活動を行っています。

運営委員会では、総会の6月開催に対応し、学会賞選考委員の任期を総会を基準として2年間(2回)選考を行うことが決定されました。

今後の学会賞選考委員会の活動は以下のようになります。

2018年度の審査(2018年6月の総会で表彰):推薦依頼中

2019年度の審査(2019年6月の総会で表彰)

2020年度の審査(2020年6月の総会で表彰)

過渡期である2018年度の審査(2018年6月)については、推薦依頼を2017年度中に行わないと日程が間に合わない(推薦締切2018年4月13日)ということで、2017年度学会賞選考委員会が行っています。

2018年4月から新しい年度になりますが、新しい学会賞選考委員会を直ちに立ち上げて、委員の互選で委員長を選出し、2017年度の審査を引継ぎながら2018年度の審査を行ってもらうことは日程的にも厳しいのが実状です。また、新学会賞選考委員会にはしっかり準備を行って2019-2020年度の2年間の審査を担当していただきたいということもあります。

こうした状況を踏まえて審議の結果、今回は特別に2018年6月の総会までは現学会賞選考委員に担当していただくことになりました。

・幹事の兼任について

山本幹事長から、小田会計幹事をご出産のため大会・シンポジウムなどに参加できない可能性が高く、会費納入などの対応するため、平成30年度については富田庶務担当幹事と久保田庶務担当幹事が庶務・会計幹事としてサポートする体制とすることが提案され、承認された。

・平成29-30年度第12回運営委員会(ネット)

日時:平成30年4月27日~5月7日(メールによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

議題1. 入会承認について

議題2. 退会承認について

・平成29-30年度第13回運営委員会(ネット)

日時:平成30年5月15日-5月22日(メールによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

議題1. 学会賞候補者

議題2. フェロー候補者

議題3. 優秀学生発表賞内規およびの編集委員会内規の修正

・平成29-30年度第14回運営委員会

開催日時:平成30年6月8日(金)16:30-18:00

会場:統計数理研究所 会議室

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

出席者:栗原考次(会長,岡山大学),山本義郎(幹事長,東海大学),今泉忠(多摩大学),久保田貴文(多摩大学),酒折文武(中央大学),清水信夫(統計数理研究所),馬場康維(統計数理研究所)(会長,幹事長以外は五十音順,敬称略)

オブザーバー:富田誠(庶務担当,東京医科歯科大学)

議題

◆報告事項

1. 第37回大会について

清水大会実行委員長が資料に基づいて来年度の大会について現状を報告した。2018年6月9日から10日に統計数理研究所(2F・大会議室)で開催予定であること、また登録者数の状況等について報告した。

2. 和文誌について

山本幹事長が和文誌について第7巻第1号の進捗状況について、および第8巻第1号について報告した。

3. IFCS-2017について

今泉IFCS-2017組織委員長がIFCS-2017の会計状況およびポストプロシーディングの進捗状況について報告した。また、栗原会長がIFCS-2019の開催概要について紹介した。

4. 第6回日独分類シンポジウムについて

今泉実行委員長が資料に基づいて第6回日独分類シンポジウムについて事業報告・会計報告およびポストプロシーディングの進捗状況について現状を報告した。

5. 第7回日独分類シンポジウムについて

栗原会長が第7回日独分類シンポジウムについて報告した。シンポジウムとしてはオープンとするが、参

加者・発表者については会長が選定すること、また先方からのサポートについては、シンポジウム参加費のみを補助いただくことを確認した。

6. ECDA2018 について

栗原会長が日本分類学会が共催する ECDA2018 について現状を報告した。

7. COMPSTAT2018 について

今泉委員が COMPSTAT2018 において日本分類学会としてセッションを開催する旨を報告した。

8. 優秀学生発表賞の選考・授与について

山本幹事長が優秀学生発表賞の選考・授与について、学会賞選考委員会委員長が優秀学生発表賞の委員長も兼ねること、また参加者のうち審査対象者とは関係しない者が審査をすることを報告した。

9. シンポジウムについて (資料 1)

山本実行委員長が 2018 年度日本分類学会シンポジウムについて開催概要について紹介した。

10. その他

足立学会賞選考委員長が平成 30 年度の学会賞受賞者・フェロー候補者について紹介した。

◆審議事項

1. 平成 29 年度事業報告・会計報告について (資料 2-1, 2-2)

山本幹事長が資料に基づいて平成 29 年度事業報告および会計報告について説明した。審議の結果、原案通り承認され、総会に諮ることとなった。なお、総会資料において提示する資料については、議事録が会報等で公開されているので平成 31 年度より簡略化することを確認した。

2. 平成 30 年度事業計画・予算案について (資料 3-1, 3-2)

山本幹事長が資料に基づいて平成 30 年度事業計画案について報告した。大会およびシンポジウムの開催の時期・場所について、また役員選挙を行うこと、学会事務の業務委託について検討することを項目立てすることを説明した。審議の結果、文言を修正の上、総会に諮ることとなった。

3. 第 38 回大会について

山本幹事長が第 38 回大会について会期、開催時期、実行委員長について、2019 年 6 月 15 日から 16 日に実践女子大学 (渋谷キャンパス) で、竹内 光悦氏 (実践女子大学) を実行委員長として開催することを提案し、審議の結果、原案通り承認され、総会にて報告することとなった。

4. 連合大会での企画セッションについて

栗原会長が連合大会での企画セッションについて、2017 年度までの連合大会でシンポジウムを企画セッ

ションとして実施していた経緯を説明し、2018 年度連合大会では企画セッションを実施しない旨、また 2019 年度以降はシンポジウムではなく独立して企画セッションを実施することを検討することを提案した。審議の結果、原案通りに承認され、総会に諮ることとなった。なお、今後の連合大会企画セッションについては、連合大会のプログラム委員として選出された担当者に内容を含めて一任することが確認された。

5. 運営委員会規定について (資料 4)

山本幹事長が運営委員会規定についてこれまでの経緯を説明し、資料に基づいて規定の案を提案した。定例の運営委員会を年に 2 回開催すること、また定足を定めること等の案について提案した。審議の結果、字句修正の上で承認され、総会にて報告することとなった。なお、総会で諮るような重要事項については定例の運営委員会にて審議することが確認された。

6. 運営委員会の名称について (資料 5)

山本幹事長が運営委員会の名称についてこれまでの経緯を説明し、資料に基づいて運営委員会を評議員会、運営委員を評議員と変更することを提案し、審議の結果、原案通りに承認され、総会に諮ることとなった。なお、新評議員の選出については今年度実施される役員選挙にて行われるため、合わせて変更することが確認された (審議事項 11)。

7. 学会の年度表記について (和暦から西暦へ)

山本幹事長が学会の年度表記について検討した旨を説明し、継続審議となった。

8. 会則・内規等の改正について (資料 6, 7, 8)

山本幹事長が資料に基づいて、会則・内規等の改正について提案した。審議の結果、字句修正の上で承認された。審議事項 6 および 8 については一括で総会に諮ることとなった。

9. シンポジウムの名称について

山本幹事長がシンポジウムの名称について、審議事項 7 と関連して説明した。審議の結果、シンポジウムの名称については過去の表記を踏襲して、年度表記を西暦とすることが承認された。

10. 次年度学会賞・フェロー選考スケジュールについて

山本幹事長が資料に基づいて次年度学会賞・フェロー選考のスケジュールを提案した。審議の結果、原案通り承認された。

11. 役員選挙のスケジュールについて

山本幹事長が資料に基づいて選挙管理委員の選出およびスケジュールについて提案をした。審議の結果、原案通り承認された。

12. 総会の次第について (資料 9)

山本幹事長が資料に基づいて、総会の次第について提案し、審議の結果、運営委員会での審議内容を踏まえて、項目・字句を修正の上、総会に諮ることとなった。

13. 入退会について

久保田幹事が資料に基づき入退会について説明した。審議の結果、原案通り承認された。

14. その他

その他の審議事項なし。

・平成 29-30 年度第 15 回運営委員会（ネット）

日時:平成 30 年 8 月 27 日～9 月 5 日（メールによる審議）

下記の議題について審議し、すべて承認された。

議題 1. 第 8 巻第 1 号からの編集委員会の承認について

議題 2. 入会承認について

・平成 29-30 年度第 17 回運営委員会（ネット）

日時:平成 30 年 11 月 12 日～11 月 16 日（メールによる審議）

下記の議題について審議し、承認された。

議題 1. 入会承認について

・平成 29-30 年度第 18 回運営委員会

開催日時：平成 30 年 12 月 15 日（土）17:00 - 19:00

会場:東京医科歯科大学 M&D タワー18 階小会議室 1

出席者：栗原考次, 岡太彬訓, 竹内光悦, 馬場康維, 山本義郎, 吉野諒三

14 名の運営委員より議長への委任状提出あり

陪席者：富田誠

◆報告事項

1. 統計関連学会連合理事会報告

栗原会長より、9 月に開催された連合理事会について、次期連合大会の体制、さらに次の連合大会開催地、JJSD の発行・査読などの状況について報告があった。

2. 2018 年度日本分類学会シンポジウムについて

山本実行委員長より、同シンポジウムは参加者 47 人と盛況であった、そして東海大学からの補助と広告収入もあり、学会へ準備金 5 万円を返納し、約 14 万円を寄付したと報告があった。

3. 日本分類学会第 38 回大会について

竹内実行委員長より 6 月 15-16 日に実践女子大学で開催される第 38 回大会について準備状況の報告があった。大会前に開催される運営委員会の日程や大会のプログラムについて議論され、今後さらに詳細は検討していくこととなった。

4. IFCS-2017 について

今泉 IFCS-2017 組織委員長からの報告を山本幹事長が代わり、参加人数の修正、Post Proceeding、会計報告について早急に対応することについて報告が行われた。

5. IFCS-2019 について

栗原会長より、ギリシャのテッサロニキで開催される IFCS-2019 について、2nd call for paper のアナウンスがあったこと、日本分類学会からの企画として時空間解析・可視化の企画セッションを予定していることなどの報告があった。

6. 編集委員会からの報告

吉野編集委員長より、現在の巻について特集を含めた状況の報告があった。論文のカテゴリーについてや J-stage での運用も含めて議論があったが、編集委員会で検討いただき、次回以降の運営委員会に提案いただくこととした。

7. データ分析セミナーについて

竹内幹事よりデータ分析セミナーについて、準備を進めていることが報告された。また、山本幹事長より豊田幹事の準備しているデータ分析セミナーについての報告がなされた。実施日程など調整することとなった。

8. その他

栗原会長より 2019 年 3 月 18-20 日にドイツのバイロイトで開催される ECDA2019 について call for paper が 12 月末まで延長されたこと、日本より 2 名の invited speaker がいること、そして日本分類学会は主催団体であることなど、報告があった。

山本幹事長より、今泉幹事からの報告として、日独分類学会の Post Proceeding を 3 回分まとめて現在投稿依頼されたことについて報告があった。

◆審議事項

1. 新入会員について

富田幹事より入会申込書を回覧し、5 名（高見遼太、坂本亘、鎌倉稔成、西井龍映、富澤貞男）の入会が承認された。

2. 入会手続について

山本幹事長より、正会員・学生会員・賛助会員の 3 種の入会申込書書式とそれぞれのガイドラインが提示され、手続きの簡略化のため、氏名・推薦者名が自署の場合には押印を必要としないこと、推薦者の自署または押印がない場合推薦者に E-mail で確認をとることで受け付ける形式に変更することが承認された。修正された入会申込書とガイドラインを別添する。

（ファイル名：

JCS-application_regular_Guideline.docx

JCS-application_regular_Print.doc

JCS-application_student_Guideline.docx

JCS-application_student_Print.doc

JCS-application_sanjyo_Guideline.docx

JCS-application_sanjyo_Print.doc)

3. 会費未納者への対応について

山本幹事長より長期年会費未納者についてリストを回覧し、3年以上会費未納者に対しては雑誌・会報を送付しないこと、また5年以上の未納者については除名とすることなどが提案され、除名については今後の検討事項とし、未納者への郵送を止めることについては承認された。

4. 2019-2020年度 役員選挙について

選挙管理委員に代わり栗原会長より、会員からの監事・評議員候補の推薦状況の報告があり、また監事・評議員候補を別添の通り提案され、承認された。

(ファイル名: senkyo_koho.pdf)

更に栗原会長に一旦退席いただき、次期会長について議論され、栗原考次氏を会長候補とすることが承認された。

5. 統計関連学会連合大会の委員について

栗原会長より、2019年度統計関連学会連合大会における、運営委員を土田潤氏(東京理科大学)、プログラム委員を山本倫生氏(岡山大学)に選出したいと提示され、承認された。

6. 2019年度日本分類学会シンポジウムについて

山本幹事長より同シンポジウムを富田誠氏を実行委員長とし12月に北九州市で開催を企画していることが提案され、承認された。富田実行委員長より、同シンポジウムを12月14-15日に北九州国際会議場(小倉駅 至近)で開催する予定であることが報告された。

7. その他

山本幹事長より第39回大会(2020年)の候補について提議があったが、今後の継続検討事項とした。

○幹事会議事録

・平成29-30年度第2回幹事会

開催日時:平成29年12月3日(日),15:00-16:15

会場:北海道大学情報基盤センター北館4階会議室

〒060-0811 北海道札幌市北区北11西5

出席者:栗原考次(会長,岡山大学),山本義郎(幹事長,東海大学),岡太彬訓(立教大学),久保田貴文(多摩大学),酒折文武(中央大学),富田誠(東京医科歯科大学),水田正弘(北海道大学),宿久洋(同志社大学)(会長,幹事長以外は五十音順,敬称略)

◆審議事項

1. 入会手続の簡素化について

山本幹事長が入会手続の簡素化について、これまでの経緯を説明した。現在の入会申込書には本人と推薦人の印鑑が必要となっており、メールで申込書をスキャンしたものを送って入会申込みがあった際に、原本を学会事務局に郵送してもらうようになっている。この手続は煩雑であるので、柔軟な対応をしてよいのではないかと提案した。審議の結果、スキャンしたものをメールで送られたものについては郵送不要とすることで、運営委員会に諮ることを決定した。申込み方法の簡素化については、簡素化の方向で検討することとなった。

2. 来年度の大会について

山本幹事長が来年度の大会について会期,開催時期,実行委員長について,2018年6月9日から10日(8日夕方に運営委員会を開催予定)に統計数理研究所で,清水信夫氏(統計数理研究所)を実行委員長として開催することを提案し,審議の結果,原案通り承認され,運営委員会に諮ることとなった。

なお,2018年2月~3月にかけて幹事会・運営委員会の開催が予定されており,日程については調整することとなった。

3. 学会賞,フェローについて

山本幹事長が学会賞,フェローについて平成29年度を受賞者で,平成29年度総会に欠席された方については,平成30年度の総会にて授賞式・授与式を開催する旨を提案した。審議の結果,原案通り承認され,運営委員会に諮ることとなった。

また,2018年度の総会が6月に開催予定であることから,学会賞の選考時期について検討することを運営委員会に提案することとなった。

4. 学生に対する大会での賞の授与について

山本幹事長が,学生会員の増加を目指して,大会における学生会員の優秀な発表に対して表彰する学生研究発表賞について,次回の大会から実施できるように準備することを提案した。審議の結果,原案どおり承認され,運営委員会に諮ることとなった。

5. 監事について

岡太幹事が,会計監事が担当する役割として会計監査に加えて,業務監査を行うことと変更する旨を提案した。あわせて,会計監事を監事に名称変更することが提案された。審議の結果,原案通りに承認され,運営委員会に諮ることとなった。(編集箇所については,議題8に示す。)

6. 編集委員長について

山本幹事長が,編集委員会からの報告を運営委員会で報告する旨を提案し,審議の結果,原案どおり承認された。

岡太幹事が、編集委員規定が通った場合の委員長の任期と幹事(編集担当)について、次期編集委員長は平成30年度から就任するが、現在編集しているVol.6については岡太編集委員長が担当し、次号からの編集に次期編集委員長が担当することが提案された。審議の結果、原案通り承認された。編集委員長については、運営委員会に諮ることとなった。

7. 運営委員会の定足数について

山本幹事長が、現在運営委員会については定足数が設けられていない点について問題を提起した。今後運営委員会において定足数を設け、欠席の際に委任状を認めるよう規定の変更をすることを提案した。審議の結果、原案通りに承認され、運営委員会に提案することとなった。また、運営委員会の議長は会長が務めているが規程には記されていない点など、規程の改訂が必要であることが確認された。

8. 会則等の改定について

賛助会員の会費を3万円から5万円に変更する旨が提案され、原案通りに承認され、さらに運営委員会に諮ることが承認された。

会則、細則の改訂箇所については以下の通りである。

会則：

第7条(3)：会計監事 ⇒ 監事

第10条：会計監事は会計監査を行う⇒ 監事は業務監査および会計監査を行う

第11条：会計監事 ⇒ 監事

改訂 平成29年12月4日、第7条(3)、第10条、第11条を改訂(平成31年4月1日より実施)

細則：

第2条(4)：30,000円⇒50,000円

改訂 平成29年12月4日、第2条(平成30年4月1日より実施)

9. 和文誌のJ-Stage登録作業について

山本幹事長が、和文誌がJ-Stageに平成30年度以降に登録されることとなったことについて報告した。今後の登録について和文誌発行と同時に進行するため次年度の予算に入れる必要があること、過去の発行については料金を出版社に照会の上検討することが提案された。審議の結果、原案通り承認され、運営委員会に諮ることが承認された。

10. ADACについて

山本幹事長が、ADACを全員がとるようにすることについてこれまでの幹事会・運営委員会からの引き継ぎ事項であることを提案した。今後も引き続き検討することについて確認された。

11. 連合大会での企画セッションについて

山本幹事長が、統計関連学会連合大会の次年度大会において、日本分類学会としてセッションを企画するかについて確認された。前回の運営委員会でも、この件については検討が必要であることが確認されていたので、運営委員会に諮ることが確認された。

12. 運営委員会次第・総会次第について

山本幹事長が、運営委員会次第および総会次第について提案した。審議の結果、文言修正の上、運営委員会に諮ることが承認された。

13. その他

栗原会長が、日独分類シンポジウムの次回開催については2018年7月1日から3日までドルトムントにて開催されることになったこと、それに関連してECDA2018が2018年7月4日から6日にPaderbornで開催される予定である旨、またその大会を日本分類学会が後援することとなったことについて報告した。

・平成29-30年度第3回幹事会

開催日時：平成30年3月6日(火)10:30-12:15

会場：統計数理研究所 会議室2(D208)

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

出席者：栗原考次(会長、岡山大学)、山本義郎(幹事長、東海大学)、今泉忠(多摩大学)、岡太彬訓(立教大学)、久保田貴文(多摩大学)、酒折文武(中央大学)、富田誠(東京医科歯科大学)、豊田裕貴(法政大学)、水田正弘(北海道大学)、宿久洋(同志社大学)、清水信夫(統計数理研究所、オブザーバー)(会長、幹事長以外は五十音順、敬称略)

議題

◆報告事項

1. 来年度の大会について

清水次期大会実行委員長が来年度の大会について現状を報告した。2018年6月9日から10日(8日夕方に運営委員会を開催予定)に統計数理研究所(2F・大会議室)であり、期日等の日程について、参加費について、次回幹事会までにはWebページ公開を予定している旨を報告した。関連して、セミナーの併催や、セッション決め方、優秀学生発表賞については継続審議となった。

2. 和文誌について

岡太編集委員会委員長が第7巻第1号の進捗状況について、吉野次期編集委員会委員長が第8巻第1号の進捗状況について報告した。編集委員の編集責任について、第7巻第1号の編集・発行までが現編集委員が担当し、第8巻第1号から新編集委員が担当することが確認された。

3. その他（日独分類シンポジウムについて）

今泉日独分類シンポジウム実行委員長が資料に基づいて第6回日独分類シンポジウムについて報告した。日独分類シンポジウムのためのセミナー（2018年3月現在開催中）としては第6回分の補填を行うこと、また今後出版のために積み立てていくことを確認した。旅費の補助については今後お互いに行わない方針であることを先方に確認することになった。資料については3月27日の幹事会までに修正することとなった。

◆審議事項

1. 平成29年度会計報告について

山本幹事長が資料に基づいて平成29年度決算案について、平成29年度事業報告について報告し、継続審議となった。特に、学会誌の発行についての発行時期が翌年度にずれ込むため、予算立てについては継続審議となった。

2. 平成30年度事業計画について

山本幹事長が資料に基づいて平成30年度事業計画案について報告し、セミナーについては項目を立てること、シンポジウムを独自に行うことなど、継続審議となった。学会賞、フェローについての議論は審議事項5.に記載する。

3. 大会における優秀学生発表に対する賞について

山本幹事長が大会における優秀学生発表に対する賞について説明し、継続審議となった。

4. 来年度のシンポジウム、連合大会での企画セッションについて

山本幹事長が連合大会での企画セッションについて過去の経緯や現在の状況について報告し、継続審議となった。また、山本幹事長が来年度のシンポジウムについて、新規入会獲得のためにも魅力的なシンポジウムの開催ということで東京から少し離れた地域での開催について提案し、継続審議となった。

5. 和文誌のJ-Stageへの登録について（費用、公開方針）

山本幹事長が和文誌のJ-Stageへの登録について説明があり、公開の方針について、内容や時期について編集委員会へ検討を依頼し、継続審議となった。

6. 学会賞、フェローについて

山本幹事長が学会賞、フェローについて、平成30年度についての授与および授与式のタイミングについ

て提案をした。審議の結果、現在の学会賞委員会が平成30年度の学会賞・フェローの募集を平成30年6月の大会に向けて行うこと、また、平成30年度学会賞受賞者、フェロー授与者の選定については新学会賞委員会が行うことを運営委員会に諮ることになった。

7. 平成30年度予算案について

山本幹事長が平成30年度予算案について説明し、本幹事会の議論の内容を踏まえて作成する予定であることを説明した。

8. 運営委員会次第・総会次第について

山本幹事長が資料に基づいて運営委員会次第について提案し、継続審議となった。また、総会次第についても継続審議となった。

9. その他

山本幹事長が規約の変更について、特に選挙規約について説明し、継続審議となった。役員会（幹事会、運営委員会）の役割についても継続審議となった。

・平成29-30年度第8回運営委員会

開催日時：平成30年3月27日（火）15:00 - 16:30

会場：東京医科歯科大学 M&D タワー18F 小会議室

1 〒113-8510 東京都文京区湯島1丁目5-45

出席予定者：栗原考次（会長，岡山大学），山本義郎（幹事長，東海大学），今泉忠（多摩大学），久保田貴文（多摩大学），酒折文武（中央大学），清水信夫（統計数理研究所），竹内光悦（実践女子大学），冨田 誠（庶務担当，東京医科歯科大学），豊田裕貴（法政大学），中山厚穂（首都大学東京），水田正弘（北海道大学），宿久洋（同志社大学）（会長，幹事長以外は五十音順，敬称略）

議題

◆報告事項

1. 第37回大会について

清水大会実行委員長が資料に基づいて来年度の大会について現状を報告した。2018年6月9日から10日（8日夕方に運営委員会を開催予定）に統計数理研究所（2F・大会議室）で開催予定であり、期日等の日程および参加費について、近日中にMLにて会員へ広報する予定である旨を報告した。

2. IFCS-2017について

今泉IFCS-2017組織委員長がIFCS-2017の会計状況およびポストプロシーディングの進捗状況について報告した。

3. 第6回日独分類シンポジウムについて

今泉実行委員長が資料に基づいて第6回日独分類シンポジウムについて収支報告およびポストプロシーディングの進捗状況について現状を報告した。

4. 第7回独日分類シンポジウムについて

栗原会長が第7回独日分類シンポジウムについて現状を報告した。ドイツ分類学会側からサポートの提案があったが、宿泊費等については断ること、また参加形態としては検討中である旨を報告した。近日中にMLにて会員へ広報される予定である旨を報告した。なお、当該シンポジウムには、エセックス大学の関係者が参加し、留学プログラムについても相談したい旨の情報提供がされた。

5. ECDA2018について

栗原会長が日本分類学会が共催するECDA2018について現状を報告した。

6. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 平成29年度事業報告・会計報告について

山本幹事長が資料に基づいて平成29年度決算案について、平成29年度事業報告について報告し、継続審議となった。特に、学術会議およびJJSDについて項目の移動や修正が必要である旨が確認された。3月末で決算、4月下旬から5月にかけて監査をうけ、6月の運営委員会、総会に諮ることが確認された。

2. 平成30年度事業計画・予算案について

山本幹事長が資料に基づいて平成30年度事業計画案について報告し、セミナーについては項目を立てること、シンポジウムを独自に行うことなど、継続審議となった。特に、前年度予算については、欠如している項目があるので留意するよう指摘があった。

3. 大会における優秀学生発表に対する賞について

山本幹事長が資料に基づいて大会における優秀学生発表に対する賞について提示した。審議の結果、優秀学生発表賞を設立することおよびそれに対応する規約の部分を変更し新たに内規を規定することが承認された。規約の修正部分等は添付の通りであり、英語名称については、審議事項7の部分に記載する。

4. シンポジウム、連合大会での企画セッションについて

山本幹事長が連合大会での企画セッションについて飯塚誠也氏（岡山大学）が企画を立てることを提案した。審議の結果、原案通り承認された。また、山本幹事長が資料に基づいてシンポジウムを11月24日から25日にかけて、那覇にて山本義郎氏（東海大学）を実行委員長として開催することを提案した。審議の結果、原案通り承認された。

5. 和文誌のJ-Stageへの登録について(公開方針)

山本幹事長が和文誌のJ-Stageへの登録について説明があり、公開の方針について、和文誌について「で

きる限り早く公開する」ことが承認された。なお、登録申請は和文誌を対象とし、大会の予稿集については登録対象となっていないことが確認された。

6. セミナーについて

豊田企画担当幹事および竹内企画担当幹事がセミナーについて現状を報告した。審議の結果、継続審議となった。

7. 学会賞、フェローについて

山本幹事長が資料に基づいて学会賞の英語名称を提案した。審議の結果、原案通りに承認された。承認された名称は以下の通りである。

(1) 貢献賞 (Distinguished Career Award)

(2) 論文賞 (Outstanding Paper Award)

(3) 奨励賞 (Young Researcher Award)

(4) 優秀学生発表賞 (Outstanding Student Presentation Award)

栗原会長が学会賞選考委員会の任期について提案した。審議の結果、次回の総会までは現委員が担当することが承認された。（「学会賞選考委員会の任期に関する補足」を最後につけました）

9. 規定の変更について

規約の改定について

山本幹事長が資料に基づいて規約の改定について提示し、継続審議となった。

学会賞選考委員会の任期に関する補足

学会賞選考委員の任期は「学会賞内規第5条」により2年ですので現在の2016-2017年度委員は以下の2年（2回）担当しています。

2016年度の審査（2017年3月の総会で表彰）

2017年度の審査（2017年12月の総会で表彰）

これまで、日本分類学会では、学会賞選考委員会は該当年度に選考を行い、年度の最後である3月に総会で表彰を行い、その役割を終了していました。つまり、総会を基準とした活動を行っています。

運営委員会では、総会の6月開催に対応し、学会賞選考委員の任期を総会を基準として2年間（2回）選考を行うことが決定されました。

今後の学会賞委員会の活動は以下のようになります。

2018年度の審査（2018年6月の総会で表彰）：推薦依頼中

2019年度の審査（2019年6月の総会で表彰）

2020年度の審査（2020年6月の総会で表彰）

過渡期である2018年度の審査（2018年6月）については、推薦依頼を2017年度中に行わないと日程が間に合わない（推薦締切2018年4月13日）ということで、2017年度学会賞選考委員会が行っています。

2018年4月から新しい年度になりますが、新しい学会選考委員会を直ちに立ち上げて、委員の互選で委員長を選出し、2017年度の審査を引継ながら2018年度の審査を行ってもらうことは日程的にも厳しいのが実状です。また、新学会選考委員会にはしっかり準備を行って2019-2020年度の2年間の審査を担当していただきたいということもあります。

こうした状況を踏まえて審議の結果、今回は特別に2018年6月の総会までは現学会賞選考委員に担当していただくことになりました。

・平成29-30年度第5回幹事会

開催日時：平成30年5月19日（土）、16:00-19:00
会場：東京医科歯科大学 M&D タワー18F 小会議室1
出席者：栗原考次（会長、岡山大学）、山本義郎（幹事長、東海大学）、今泉忠（多摩大学）、小田牧子（防衛医科大学校）、清水信夫（統計数理研究所）、竹内光悦（実践女子大学）、富田 誠（東京医科歯科大学）、水田正弘（北海道大学）、宿久洋（同志社大学）（会長、幹事長以外は五十音順、敬称略）

議題

◆報告事項

1. 平成29年度事業報告・会計報告について

山本幹事長より平成29年度事業報告、小田会計幹事より平成29年度会計報告がなされ、事業報告については若干の文言を修正し、両報告とも運営委員会へ諮ることとした。

2. 2018年度のセミナー案について

2018年度のデータ分析セミナーについて、竹内企画幹事からの豊田裕貴先生・今泉忠先生を講師としたセミナーを12月中の土曜日に開催する計画であることが報告された。

3. 和文誌の発行スケジュールについて

宿久副編集委員長より和文誌 vol.7 の編集状況について1篇を確認中、7月に発行される予定であることが報告された。また vol.8 について各会員より投稿の検討を促すよう依頼もあった。

4. 2018年度日本分類学会シンポジウムについて

11月24-25日に沖縄県青年会館で開催される2018年度日本分類学会シンポジウムについて、実行委員長である山本幹事長より準備の進捗について報告された。また、大会・シンポジウムで講演申込や参加登録がEメールベースでなく、NetCommons等のコンテンツ管理システム(CMS)を導入し、来年度以降の大会・シンポジウムで流用できるよう整備し、本シンポジウムより開始することを確認した。

5. その他

なし

◆審議事項

1. 平成30年度事業計画について

山本幹事長より平成30年度事業計画について説明があり、データ分析セミナーを数回開催することや、大会とシンポジウムは分けて項目立てすること、COMPSTAT2018への本学会主催の企画セッションなどについて追記する、など修正・加筆し、運営委員会へ諮ることとした。

2. 平成30年度予算案について

小田会計幹事より平成30年度予算案について提示され、データ分析セミナーを数回開催することや、ほか若干を修正し、運営委員会へ諮ることとした。

3. 2019年度の大会、シンポジウムについて

大会について、山本幹事長より、実践女子大学の竹内先生を実行委員長として進めることが報告され、竹内企画幹事より都区内で2019年6月に開催する予定であることが説明された。シンポジウムについては2018年度と同じく地方で開催する方針が確認された。

4. 2019年度統計関連学会連合大会の企画セッションについて

企画セッションのあり方・方針について改めて議論し、今後も企画セッションを本学会よりオーガナイズすることや、オーガナイズは依頼したオーガナイザーに内容を含めて任せることが賛同され、これらを運営委員会へ諮ることとした。

5. 2018年度の学会賞について

学会賞の具体的なスケジュールについて、総会後にすみやかに学会賞委員会が発足され進めることを確認した。

6. 役員選挙の実施について

次期役員選挙の実施スケジュールについて、従来通りの進行とし、運営委員会に提案することとした。

7. 学生優秀発表賞の選考・授与について

第37回大会(6月)および2018年度日本分類学会シンポジウム(11月)で実施する予定の学生優秀発表賞の選考・授与について、学会賞委員長が同選考委員長を

委任し、選出された受賞者はそれぞれの大会およびシンポジウム開催中に授与することを確認した。

8. 運営委員会の定足数について

前回の運営委員会で継続審議となった定足数等について運営委員会規定を定め、同委員会の名称も含め運営委員会へ諮ることとした。

9. 学会の年度表記について(和暦から西暦へ)

平成からの年号が来年度の途中で変更されることも考慮し、学会としての年度表記を西暦に統一する等を運営委員会へ諮ることとした。

10. 休会について

2018年4月に1年間の在外研究をする会員から休会の申し出があったことに伴い、本会として産休や在外研究など1年から2年の休会を制度化することについて検討を行ったが、認めないことと結論付けた。

11. その他

なし

事務局から

● 学会誌への論文投稿について

学会大会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

2018年に第7号を発刊いたしました。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: bda-submit@bunrui.jp

問い合わせ先 E-mail: bda-contact@bunrui.jp

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：

Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)

ドイツ分類学会(German Classification Society)およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group)と共同で、2007年よりSpringer社から刊行しております(年間3冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせください。

● 会費納入のお願い

会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンルイガツカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ)支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンルイガツカイジムキョク

● ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>)のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送りください。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください。申し込み後、幹事会にて入会の承認を行います。承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

■ 編集後記

今号に寄稿いただいた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございました。本紙面を借りて、お礼申し上げます。会報を年2回発行していく予定でしたが、発行体制が整わず、発行が遅れてしまったことをここにお詫びいたします。

会報のみならずメールニュースやFacebook等、さまざまな形で情報発信をしております。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。

広報幹事 酒折文武 (中央大学)

広報委員 阿部寛康 (京都大学)、谷岡健資 (和歌山県立医科大学)、横山暁 (青山学院大学)

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://www.bunrui.jp/>